

令和 7 年度
社会福祉法人美土里会

事業報告書

1. 社会福祉法人美土里会 法-1～24
2. 特別養護老人ホーム美土里荘 特-1～37
3. 美土里荘短期入所生活介護事業所・ 短-1～8
4. 美土里荘デイサービスセンター梓・ 通-1～5
5. 在宅介護支援センター櫟 居-1～4
6. 美土里荘グループホーム櫟 G-1～17

〒039-2504 青森県上北郡七戸町字寒水 70-17

電話：0176-62-2761(代表)

FAX：0176-62-2762

URL：<http://midorikai-gr.or.jp>

令和 7 年度 事業報告

法人事業報告書

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

目次

- 01-01 理事長総括
- 01-02 地域貢献・法人行事
- 01-03 対外研修・公的会議参加
- 01-04 防災訓練実施記録
- 01-05 福祉有償運送
- 01-06 法人委員会_虐待防止委員会
- 01-07 法人委員会_身体拘束適正化委員会
- 01-08 法人委員会_事故防止委員会
- 01-09 法人委員会_感染 BCP 委員会
- 01-10 法人委員会_防災 BCP 委員会
- 01-11 法人委員会_苦情対応委員会
- 01-12 法人委員会_認知症ケア委員会
- 01-13 法人委員会_生産性向上業務改善委員会
- 01-14 法人委員会_衛生委員会
- 01-15 法人委員会_研修委員会

1. 理事長総括

《 令和7年度 事業報告 》

令和7年度の決算は、全体的に非常に厳しいものとなりました。サービス活動増減差額が大幅な赤字（△20,887千円）となり、純資産も対前年で△26,774千円減少という結果となりました。これは単年度の偶発的事象ではないことを踏まえ、今後の方針を熟考して参ります。

特養は新規加算の算定が奏功し、昨年度比5,345千円のプラスとなりました。業務改善の工夫と職員の努力の賜です。一方で、特養入院に伴う延べ空床日数は年間1,400日超となりました。1日あたりの介護報酬を約12,000円（要介護4・個室利用者相当）と仮定すると、年間16,800千円規模の機会損失となっており、これは法人全体の赤字幅（△20,887千円）の約80%を占める計算となっています。入院に伴う長期空床の常態化、及び看取り介護の拡充・対応力の強化は喫緊の課題となっており、特養の協力医療機関と入院期間の短縮化や医療対応体制の拡充について協議が必要と考えています。

一方、ショートステイ及びデイサービスが含まれる居宅介護料収入は、前年比△13,460千円と全区分中最大の減収となりました。これは稼働率低下によるものです。

まず前述の通り特養に空床が多く発生したため、その分を空床利用型のショートステイ利用希望者受入で補填する必要がありました。しかし特養の空床は入院等により急に発生するものですが、そこにショートステイの利用を希望する方を入れ込むのは、希望の日程等と上手く噛み合わず非常に難しいものがあります。基本定員である13名は概ね確保できていますが、特養の空床増、それに伴うショートステイによる補填が前述の理由で機能しなかったことが最大の要因です。今後は稼働率の小まめな把握と収支管理、居宅介護支援事業所への営業や空床の週次配信など、これまで以上の細かな営業が必要であると考えます。

一方でデイサービスも減収となっています。特に要支援者層への働きかけ強化が必要と言えます。営業時間の見直しによる増収、ショートステイ同様に居宅介護支援事業所への営業活動にさらに取り組みます。

居宅介護支援料収入は前年比△100千円とほぼ横ばいとなっています。ケアマネジャー2名であるため単独事業としての収益貢献よりも、法人内のサービス（特養・ショート・デイ・GH）への顧客導線として戦略的価値が高く、新たに処遇改善加算の算定も開始するため、今後もこの水準を維持するよう努めます。

グループホームの事業活動については、前年比△802千円と微減しています。定員18床に対する稼働率は概ね高水準で維持されていますが、認知症ケア及び医療連携に関連する加算の算定機

会がありながら十分活用できていませんでした。令和 8 年度はその部分の加算の拡充を目指し、より安定経営に資する事業への強化を図ります。

法人全体の支出では、人件費が法人最大の費用項目（366,511 千円、費用全体の 70.5%）を占めています。賞与の増加（前年比+4,271 千円）もありましたが、これは処遇改善加算等の活用と職員定着策の結果であり、削減対象ではなく「投資」として位置づけるべきであると考えます。

一方で建物・設備等の減価償却費は 34,628 千円（前年比△674 千円）。建物（基本財産）の取得価額 875,847 千円に対し減価償却累計 622,803 千円（70.9%償却済）、機械装置等も多くが償却完了していますが、特養建物は昭和 63 年（1988 年）新築で築 38 年経過、修繕費の急増

（前年比+1,179 千円）もこの老朽化を反映していると言えます。5～10 年スパンでの中長期的な建替え・大規模修繕の方針決定が経営の最大論点となることは間違いありません。すなわち、人に投資をして育成しつつ、「収益機会の取りこぼしを徹底的に減らす」という姿勢の組織全体への浸透と、業務の洗い直しが令和 8 年度の最重要テーマとなります。

創業者から受け継がれた「忠恕」の精神は、利用者本位のケアを貫くことはもとより、経営基盤を健全に維持し、利用者・職員の生活と地域の安心を守り続けることまで含めて初めて全うできるものです。今一度その精神に立ち返り、令和 8 年度は法人の安定経営のために尽力して参ります。

今年度もご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和 8 年 6 月

理事長 盛田 薫

01-02 地域貢献・法人行事

● 基本情報

項目	内容
法人名	社会福祉法人美土里会
対象年度	令和 7 年度
報告者氏名	盛田 一栄
年間地域貢献件数	10

● 地域貢献

No.	実施月日	区分	内容	貢献時間 (時間)	職員名
1	5 月 12 日	環境	国道 394 号線沿い清掃活動	2	20 名
2	7 月 23 日・	福祉	令和 7 年度 青森県喀痰吸引等研修 基本研修 演習	12	工藤和佳子

	24 日		指導講師		
3	9 月 24 日	教育	福祉の仕事「あれこれ」出前講座講師 六ヶ所村立南小学校	2	盛田一栄、青木郁美
4	9 月 29 日・30 日	教育	七戸高等学校 介護員養成研修事業 介護職員初任者研修 講師	6	盛田一栄
5	10 月 30 日	教育	福祉の仕事「あれこれ」出前講座講師 六ヶ所村立千歳平小学校	2	盛田一栄、青木郁美
6	11 月 6 日	教育	令和 7 年度「生きる・働く・学をつなぐみらい科学習」職業講話講師 六戸町立義務教育学校六戸学園	2	盛田一栄
7	12 月 5 日	教育	キャリア教育出前授業講師 七戸町立城南小学校	2	盛田一栄
8	12 月 16 日	教育	キャリア教育出前授業講師 野辺地町立野辺地小学校	2	盛田一栄
9	12 月 21 日	福祉	青森県社会福祉士会 基礎研修Ⅲ ファシリテーター	7	盛田一栄
10	2 月 2 日	教育	「夢にむかって」職業講話講師 十和田市立北園小学校	2	盛田一栄
計	年間貢献事業件数		10	39	件・時間

● 法人行事

No.	実施月日	行事名	参加者数	内容・備考
計	年間法人行事件数		0	件

▶ 補足事項（行事を実施しなかった場合の理由・特記事項等）

美土里会フェスティバルを計画していたが、諸事情を考慮し実施せず。

01-03 対外研修・公的会議参加

● 基本情報

項目	内容
法人名	社会福祉法人美土里会
対象年度	令和 7 年度
報告者氏名	盛田 一栄
年間研修参加件数	24
年間公的会議出席件数	32

● 研修参加

No.	研修日	研修名	参加者数
1	4 月 10 日	科学的介護情報システム（LIFE）研修会	1
2	4 月 21 日	団塊の世代は特養をどう変えるのか（ZOOM 講演会）	1
3	4 月 28 日～計 8 日	青森県介護支援専門員研修課程Ⅱ及び更新研修	1
4	5 月 19 日	介護支援専門員の職業倫理と法令遵守研修会	1
5	6 月 30 日～計 3 日	青森県認知症介護実践者研修	2
6	6 月 10 日	第 2 回七戸町地域ケア会議 DNAR プロトコルの概要	4
7	6 月 14 日	令和 7 年度デイサービスセンター職員スキルアップ研修会 レクの意義を知る！レク支援の実践を知る！	2
8	7 月 19 日～計 15 日	介護福祉士会 ファーストステップ研修	3
9	8 月 4 日	令和 7 年度 安全運転管理者等講習	1

10	8月9日	令和7年度 青森県感染対策特別研修会	2
11	9月3日～計5日	認知症介護実践リーダー研修	3
12	9月10日	2025 介護テクノロジー展&生産性向上の取組み応援セミナー	1
13	9月11日	令和7年度 外国人介護職員交流会	3
14	9月26日	負担の少ない介護技術の実践	1
15	10月22日	青森県社会福祉法人経営者協議会研修会	2
16	10月22日	ケアマネジメントの標準化実践研修、介護給付適正化事業によるケアプラン点検	2
17	11月12日	令和7年度 上北地域難病対策地域協議会	1
18	11月28日・29日	認知症介護実践リーダー研修 報告会	3
19	12月13日	令和7年度 病床機能転換専門研修事業 ミールラウンド研修会	1
20	2月25日	外国人材交流会 ウィンタースポーツ スキーコース	3
21	2月26日	青森県介護支援専門員 高齢者権利擁護研修	1
22	3月18日	青森県老人福祉協会 社会福祉法人向けセミナー	1
23	3月24日	福祉用具展示会 これからの介護保険～2026年度の臨時改定も徹底解説	1
24	3月18日	青森県老人福祉協会 社会福祉法人向けセミナー	2
計	年間研修参加件数		24
参考	延べ参加者数		43

● 公的会議出席

No.	会議日	内容	場所	出席数
1	月1～2回	上北地方教育・福祉事務組合 認定審査会	七戸町ほか	3
2	4月11日	青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会 第1回役員会	県民福祉プラザ	1
3	4月14日	上十三地区老人福祉協会正副会長会議及び総会	野辺地町中央公民館	1
4	4月18日	楽晴会 三沢老人ホーム落成式及び見学会	ホテルきざん三沢	1
5	4月25日	青森県老人福祉協会 第1回理事会	ホテル青森	1
6	5月13日	第1回七戸町地域ケア個別会議・主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
7	5月14日	東奥学園介護実習事前打ち合わせ会	東奥学園高等学校	1
8	5月30日	第1回 七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
9	6月4日	青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会 通常総会及び会員研修会	アートホテル青森	1
10	6月10日	第2回 七戸町地域ケア個別会議・主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
11	6月30日	第2回 七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
12	7月15日	第3回 七戸町地域ケア個別会議	天間林保健センター	2
13	8月18日	第3回 七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
14	9月1日	第4回 七戸町地域ケア個別会議及び主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
15	10月27日	第1回 公立七戸病院運営委審議会	公立七戸病院	1
16	10月28日	第4回 七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
17	10月28日	青森県社会福祉大会	リンクステーションホール青森	1
18	10月29日	第1回 七戸町介護保険運営協議会・七戸町地域包括支援センター運営協議会	天間林保健センター	1
19	10月30日	七戸町有償運輸等運営協議会	天間林保健センター	1
20	11月7日	青森県老人福祉協会 第1回研修委員会	ホテル青森	1
21	11月11日	第5回 七戸町地域ケア個別会議及び主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
22	11月13日	青森県老人福祉協会 第3回理事会	ホテル青森	1

23	11月14日	第18回 七戸町社会福祉大会	七戸中央公民館	1
24	11月18日	青森県老人福祉協会 第1回総務委員会	アピオ青森	1
25	12月23日	東奥学園実習後報告会	東奥学園高等学校	1
26	1月14日	第6回 七戸町地域ケア個別会議及び主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
27	2月10日	第7回 七戸町地域ケア個別会議及び主任ケアマネ連絡会	天間林保健センター	2
28	2月13日	青森県老人福祉協会 第4回理事会	ホテル青森	1
29	3月9日	第2回 公立七戸病院運営審議会	公立七戸病院	1
30	3月18日	第6回 七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
31	3月18日	青森県老人福祉協会 第2回総会	ホテル青森	1
32	3月19日	青森県地域包括・在宅介護支援センター 第3回役員会	県民福祉プラザ	1
計	年間公的会議出席件数			32
参考	延べ出席数			41

01-04 防災訓練実施記録

● 基本情報

項目	内容
法人名	社会福祉法人美土里会
対象年度	令和7年度
報告者氏名	青木亮(生活相談員)
防災BCP委員会との連携	委員長と情報共有
年間訓練実施回数	4

● 訓練実施記録

No.	実施日	対象事業所	内容
1	6月19日	特別養護老人ホーム グループホーム	・日中の火災想定 ・特養・グループホーム合同訓練 ・模擬緊急通報訓練 ・模擬避難誘導訓練
2	6月25日	デイサービス	・地震想定 ・地震発生時対応・模擬消火訓練 ・模擬緊急通報訓練 ・避難誘導訓練
3	10月16日	特別養護老人ホーム グループホーム	・夜間の火災想定 ・特養・グループホーム合同訓練 ・模擬緊急通報訓練 ・模擬避難誘導訓練
4	11月7日	デイサービス	・地震想定 ・地震発生時対応・模擬消火訓練 ・模擬緊急通報訓練 ・避難誘導訓練
計	年間訓練実施回数		4

01-05 福祉有償運送

● 基本情報

項目	内容
法人名	社会福祉法人美土里会
対象年度	令和7年度
事業区分	福祉有償運送サービス
登録機関	東北運輸局青森支局
運送範囲	七戸町を発地または着地とする範囲
報告者氏名	盛田 一栄
料金	1kmあたり126円(10円未満端数切り捨て)

● 月別実施状況

距離区分	単価 (円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件数	距離 (km)	料金 (円)
～2km	370	5	2	4	4	5	6	6	3	1	1	1	1	39	78	14,430
3～5km	630	2	7	0	4	1	7	5	4	8	5	5	5	53	212	33,390
6～10km	1,260	15	7	12	14	2	3	14	12	8	17	6	4	114	912	143,640
11～15km	1,890	3	4	2	4	6	6	6	8	6	10	5	7	67	871	126,630
16～20km	2,520	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	54	7,560
21～25km	3,150	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5	115	15,750
26～30km	3,780	4	3	5	4	3	6	7	8	5	5	8	5	63	1,764	238,140
31～35km	4,410	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	6	198	26,460
36～40km	5,040	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	38	5,040
41～45km	5,670	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4	172	22,680
46～50km	6,300	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5	240	31,500
51～55km	6,930	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56～60km	7,560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
料金計		49,100	39,170	48,730	50,620	39,020	68,370	69,630	75,450	67,780	62,740	50,770	43,840	360	4,654	665,220
迎車件数	500	4	3	6	5	5	13	9	7	13	5	8	6	84	-	42,000
総合計（輸送料金＋迎車料金）		51,100	40,670	51,730	53,120	41,520	74,870	74,130	78,950	74,280	65,240	54,770	46,840			707,220

▶ 補足事項

送迎範囲は①6～10km圏内、②11～15km圏内、③26～30km圏内の順で利用回数が多く、ショートステイ及びグループホーム、居宅介護支援利用者が、町内、及び近隣市町（七戸町、十和田市）への医療機関受診のために利用する機会が多いことを示唆している。また、月別に見ると意外と年度初め・年度末の利用は少なく、9月～1月の利用が多い。

長距離輸送も回数は多くないものの数回行われている。人員・車輛の拘束時間が長く、費用対効果も疑問視される。あくまで有償ボランティアの位置づけとして行っており、今後も料金等含め在り方について検討して行きたい。

● 料金表

▶ 輸送料金（往復料金）

輸送距離	輸送料単価
～2km 以内	370
3～5km 以内	630
6～10km 以内	1,260
11～15km 以内	1,890
16～20km 以内	2,520
21～25km 以内	3,150
26～30km 以内	3,780
31～35km 以内	4,410
36～40km 以内	5,040
41～45km 以内	5,670
46～50km 以内	6,300
51～55km 以内	6,930
56～60km 以内	7,560

▶ 迎車料金

迎車場所	迎車料金
七戸町内	無料
七戸町外	500 円

01-06 法人委員会 虐待防止委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	虐待防止委員会
対象年度	令和 7 年度
委員長氏名	竹ヶ原弥姫
副委員長氏名	楠雪子
構成員数	8
開催回数	12
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4 月 14 日	年間活動計画の検討/園内研修①について	8	
2	5 月 12 日	自己チェックリストについて	7	
3	6 月 9 日	自己チェックリスト結果報告	7	
4	7 月 14 日	目安箱についての検討	7	
5	8 月 11 日	目安箱結果配布/園内研修②について	6	
6	9 月 8 日	園内研修最終検討/役割について	7	
7	10 月 13 日	日常における不適切ケアについて検討	8	
8	11 月 4 日	臨時虐待委員会開催	7	
9	11 月 10 日	自己チェックリスト・虐待・グレイゾーンについて	8	
10	12 月 8 日	自己チェックリスト集計結果報告・利用者満足アンケートについて	8	

		て		
11	1 月 12 日	虐待発生要因としての焦りについて	0	書面開催
12	2 月 9 日	利用者アンケート集計結果報告	7	
13	3 月 9 日	来年度の年間計画・内部研修について	8	
計	開催回数		13	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	令和 7 年 4 月	不適切ケア・利用者の権利擁護		全職員対象
2	令和 7 年 10 月	高齢者虐待防止グループワーク		全職員対象
計	年間研修開催数		2	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

定期的な職員の自己チェックを実施。

今年度は利用者満足アンケートを作成し利用者をピックアップし質問形式で実施。

虐待・グレーゾーンについての再度周知と起きない起こさない為の体制検討

【成果・できたこと】

職員自己チェックリストにて日頃の自分のケアを振り返る事が出来た

利用者アンケート実施し利用者からの声を耳を傾けケアに取り入れる事ができた

内部研修では他部署と協力しながら虐待事例を考え様々な視点からの話し合いを行う事が出来た。

【課題・反省点】

職員のメンタルケアやストレスケア等行う事が出来なかった。

【次年度に向けて】

職員のストレス緩和に向けての取り組み

自己チェックリスト・利用者アンケートの継続

01-07 法人委員会 身体拘束適正化委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	身体拘束適正化委員会
対象年度	令和 7 年度
委員長氏名	㐂 佳奈絵
副委員長氏名	楠 雪子

構成員数	10
開催回数	13
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月14日	身体拘束解除に向けての対策検討 指針見直し	9	
2	5月12日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認	7	
3	6月9日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	8	
4	7月14日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	9	
5	8月11日	身体拘束解除に向けての対策検討 記録の在り方	6	
6	9月8日	身体拘束解除に向けての対策検討 研修内容検討	8	
7	10月13日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	8	
8	11月10日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	8	
9	12月8日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	7	
10	12月28日	対象者の三要件、判断理由確認討議検討	5	臨時開催【特養】
11	1月	種別ごとの身体拘束の考え方		書面開催
12	2月9日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 経過報告	7	
13	3月9日	身体拘束対象者の三要件、判断理由の確認 来年度研修内容検討	8	
計	開催回数		13	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	令和7年4月	身体拘束におけるグレーゾーン		
2	令和7年11月	身体拘束に関する事例 グループワーク		
計	年間研修開催数		2	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

- ・身体拘束の廃止、削減の取り組み
- ・個別ケアの見直し
- ・拘束に代わるケアの検討
- ・身体拘束事例の定期的な振り返り
- ・拘束解除に向けたカンファレンスの実施

- ・記録様式の統一
- ・職員研修の実施

【成果・できたこと】

身体拘束の廃止、拘束時間の削減

令和7年 4月～9月 拘束対象者：4名

令和7年 10月～12月 拘束対象者：5名

令和8年 1月～2月 拘束対象者：3名

令和8年 3月～ 拘束対象者：2名

個別ケア実施→身体拘束廃止1名 また対象者の拘束時間の削減

職員の意識向上

【課題・反省点】

- ・身体拘束に頼る場面が一部残っている
- ・夜間帯の人員不足による見守り困難
- ・職員間での認識の差
- ・医療機関と施設での認識の差や連携不足

【次年度に向けて】

- ・個別ケアの充実
- ・多職種連携の推進
- ・拘束ゼロを目指した継続的な取り組み

01-08 法人委員会 事故防止委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	事故防止委員会
対象年度	令和7年度
委員長氏名	中嶋博範
副委員長氏名	酒田彩香
構成員数	9
開催回数	12
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月8日	今年度目標策定、5月開催内部研修に関して	9	
2	5月13日	県に報告する事故報告の確認。特養における事故対策評価に関して、4月事故分析	9	
3	6月10日	事故改善策周知に関して、GH・デイサービスにおけるほのぼのの使用に関して、安全配慮義務に関して、5月事故分析	8	
4	7月8日	現在実施中の事故対策に関して、特養事故発生時の記録の勉強会に関して、予防策を決めるまでの流れについて、6月事故分析	7	
5	8月13日	法人内の事故報告に関して(分析) 下半期の目標策定、7月事故分析	8	
6	9月9日	上半期の各事業所の事故・ヒヤリハットの統計・分析	7	
7	10月14日	11月開催の内部研修に関して、各事業所の事故統計・分析、9月事故分析	8	
8	11月11日	11月開催の内部研修に関して、各事業所の事故統計・分析、10月事故分析	9	
9	12月9日	11月の各事業所事故発生状況に関して、特養の事故発生時間の分析・業務見直し、	6	
10	1月13日	12月の各事業所事故状況に関して、ヒヤリハット件数の低下に関して	9	特養インフルエンザ蔓延に伴い書面開催
11	2月10日	1月中の各事業所事故状況に関して、	7	
12	3月10日	1年間を通して、振り返り	7	
13	臨時	上記会議以外、重大事故発生時実施(特養)		今年度、11回開催
計	開催回数		13	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	5月9日	事故発生からの報告書作成・改善策迄の評価の在り方		法廷研修：全職員対象
2	5月16日	事故発生からの報告書作成・改善策迄の評価の在り方		法廷研修：全職員対象
3	11月14日	緊急時対応・送迎時の緊急対応		法廷研修：全職員対象
4	11月21日	緊急時対応・送迎時の緊急対応		法廷研修：全職員対象
計	年間研修開催数		4	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

- ・介護事故予防策の具体化(特養)
- ・介護予防策のブロックごとでの管理・修正・検討

- ・他事業所での導入介護ソフトの使用推進・入力方法の統一
- ・年2回の法廷研修の実施
- ・ヒヤリハットの報告促進(一人1日1ヒヤリハット)
- ・事故報告書の作成方法研修会
- ・入職時研修
- ・重大事故発生時の臨時事故防止委員会開催

【成果・できたこと】

- ・法定研修の実施年2回
- ・ヒヤリハット報告件数。前年比2.0倍
- ・事故報告書作成方法の統一
- ・臨時事故防止委員会の体系化

【課題・反省点】

- ・事業所間での介護ソフトの利用率・理解度に差がある。
- ・頻発時間の分析、業務改善によって、介護事故発生件数の減少
- ・特養におけるヒヤリハット報告件数の減少

【次年度に向けて】

- ・他事業所での研修会開催 介護ソフトに関して
- ・ヒヤリハット報告の促進

01-09 法人委員会 感染BCP委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	感染BCP委員会
対象年度	令和7年度
委員長氏名	工藤和佳子(看護主任)
副委員長氏名	川村(香)介護職員
構成員数	10
開催回数	12
年間研修開催数	4

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月14日	BCPについて 研修について	9	
2	5月14日	研修について ハクゾウ使用用途について	9	
3	6月11日	研修について	7	

4	7月9日	研修の振り返り	7	
5	8月13日	マニュアルについて	2	
6	9月10日	マニュアルについて	6	
7	10月8日	研修について BCPについて	6	
8	11月11日	研修について	8	
9	12月12日	研修について	10	
10	1月9日	インフルエンザ保健所からの助言・指導について	4	
11	2月11日	特養での感染状況対策について	9	
12	3月11日	振り返り	8	
計	開催回数		12	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	6月13日	感染対策(種子衛生・環境整備)について	40	全職員対象
2	6月20日	感染対策(種子衛生・環境整備)について	28	全職員対象
3	12月12日	感染症 BCP 机上訓練・実働訓練	34	全職員対象
4	12月19日	感染症 BCP 机上訓練・実働訓練	26	全職員対象
計	年間研修開催数		4	回

● 総括・所感

【今年度の主な取り組み】

感染症 BCP は感染症の流行やクラスター発生に備えて事業を継続するための計画で利用者の生活と命を守るための重要な備えである。初動対応や職員体制、関係機関との連携、事業継続の工夫などを中心に BCP に盛り込んだ。研修後には BCP の見直しや課題をだした。

【成果・できたこと】

初動訓練を明確にし、いざという場面で現場が混乱せず落ち着いて対応することが重要となる。研修では、なぜ感染症 BCP が必要なのか具体的に示した。BCP 発令時、個々の役割が何かか認識する時間となった。当施設の感染症 BCP 策定してから数年経過していた為、令和7年度で見直しをし改訂することが出来た。

【課題・反省点】

感染症 BCP の見直し、研修を中心とした活動だった。令和8年度1月にインフルエンザ A 型蔓延し数々の感染症対策物品を使用した為、療養期間が明けて物品を戻す際に不足な状態で戻されていたことが反省点である。次に使用する際に困らないよう物品床頭台に管理する物品や定数を確認したうえで戻すよう、ひとり1人が心掛けるように再度周知したい。

【次年度に向けて】

令和 8 年度は感染症マニュアルを見直し、当施設に合わせた具体的なマニュアル作りをしたい。
 新人職員への教育の時間を設けて感染症対策基礎と BCP の考え方を教えてベテランと新人で知識や意識に差が出ないよう知識、技術の共有を図りたい。

01-10 法人委員会 防災 BCP 委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	防災 BCP 委員会
対象年度	令和 7 年度
委員長氏名	青木亮
副委員長氏名	村中龍介
構成員数	9
開催回数	12
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4 月 10 日	各事業所災害 BCP 作成状況確認等	8	
2	5 月 8 日	新緊急時連絡系統図の登録状況確認等	7	
3	6 月 12 日	緊急時連絡系統図について 備蓄品リストの確認等	8	
4	7 月 10 日	緊急連絡網完成(電話・LINE)、防災備蓄品の確認	8	
5	8 月 14 日	緊急連絡網についての内容確認、防災備蓄品について	6	
6	9 月 11 日	防災備蓄品、緊急連絡網、防災 BCP について	7	
7	10 月 9 日	備蓄品保管場所、緊急連絡網、防災 BCP 園内研修について	8	
8	11 月 13 日	防災備蓄品、緊急連絡網、防災 BCP 園内研修について	9	
9	12 月 11 日	備蓄品整備状況、地震時の対応振り返り、園内研修について	8	
10	1 月 15 日	防災備蓄品整備、防災 BCP に関わる訓練・研修について		特養インフルエンザ蔓延により書面開催
11	2 月 12 日	園内研修最終打ち合わせ、備蓄品不足分について	8	
12	3 月 12 日	園内研修振り返り、緊急連絡方法の抜本的改革について	9	
計	開催回数		12	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	2月13日	災害BCPに関わる訓練		
2	2月13日	災害BCPに関わる研修		
3	2月20日	災害BCPに関わる訓練		
4	2月20日	災害BCPに関わる研修		
計	年間研修開催数		4	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

今年度の防災BCP委員会では、災害時における利用者・職員の安全確保と各事業所の事業継続を目的として、各種訓練や研修、各事業所の防災BCP整備、非常時の緊急連絡網整備、各事業所の防災備蓄品整備を実施に取り組んだ。

【成果・できたこと】

特養・GH合同避難訓練を年2回、デイサービスの避難訓練を年2回、防災BCPに関わる訓練を年1回、防災BCPに関わる研修を年1回行い、職員間での非常時の役割確認や連携強化を図ることができた。また、各事業所のBCPの内容についても見直しを行い、整備を実施、緊急時の連絡網内容の一部変更を行い、連絡体制の整備を実施する事が出来た。

【課題・反省点】

特養での今年度中の防災備蓄品整備達成をする事ができなかった。

緊急連絡網を使用しての参集訓練を行った結果、機能しないわけではないが一部不具合が明白になり、連絡体制見直しが必要な状況、課題が見つかった。

【次年度に向けて】

緊急連絡方法の抜本的改革に取り組んでいく。今までの電話による緊急連絡網では時代に全く合っていないく、災害発生時に素早さ、確実性に欠ける事が明白な為です。基本的には職員全員LINEへの登録とし、管理者からの一斉送信の形としたいと考えております。また各事業所の災害BCPの随時ブラッシュアップへ向けて職員一人一人の意識づけもしていきたいと考えております。

01-11 法人委員会 苦情対応委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	苦情対応委員会
対象年度	令和7年度

委員長氏名	盛田 一栄
副委員長氏名	米内山 淳子
構成員数	8
開催回数	11
年間研修開催数	4

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月11日	今年度の活動方針、年間スケジュール、苦情・相談記録の方法の統一、苦情対応規程変更	8	
2	5月9日	年間スケジュールの再確認、分類別苦情相談分析、福祉サービス苦情解決実施要項	7	
3	6月13日	5月苦情・相談の振り返り、面会制限緩和によるマナー・接遇徹底の周知、勉強会の内容	7	
4	7月11日	6月苦情・相談の振り返り、内部研修担当、苦情解決体制の修正	6	
5	8月8日	7月苦情・相談の振り返り、園内研修内容確認	8	
6	9月12日	園内研修の参加状況及び振り返り、8月の苦情・相談振り返り、意見箱の設置	6	
7	10月10日	9月苦情・相談の振り返り	4	
8	11月14日	10月苦情・相談の振り返り	7	
9	12月12日	11月苦情・相談の振り返り、他事業所の苦情を受けた際の伝達方法、職務規程・就業規則の全面見直しの提案	8	
10	1月9日	12月の苦情・相談の振り返り	8	感染症蔓延のため書面開催
11	3月13日	2月の苦情・相談の振り返り、特定利用者の相談・トラブル精査、機器不良による苦情	8	
計	開催回数		11	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	8月8日	プライバシー保護	39	法人全職員対象
2	8月8日	介護保険施設における法令遵守の重要性	39	法人全職員対象
3	8月22日	プライバシー保護	24	法人全職員対象
4	8月22日	介護保険施設における法令遵守の重要性	24	法人全職員対象
計	年間研修開催数		4	回

● 総括・所感

【今年度の主な取り組み】

今年度は介護記録ソフトでの相談・苦情の入力を統一し全事業所での普及を図った。
毎月の各事業所の苦情をふり返り、分析・共有する体制が作れたことは良かった。

【成果・できたこと】

利用者・家族からの苦情は即時記録するとともに委員会での共有を図り、同様の苦情が発生しないよう共有を行った。また、対応可能な苦情は早めに対応し、同じ苦情を繰り返さないように努めた。

マナー・接遇や法令の遵守が、苦情発生防止の第一歩であることを説く内容の内部研修を実施した。

【課題・反省点】

特養では2月以降、特定の利用者の相談・苦情対応に追われることが多かった。緊急措置的にサービス利用を開始した方だったが、関係機関や関係者が多く支援体制構築のための打合せの他、個人的な関係者からの相談や苦情の取り次ぎ、施設内でのトラブル対応が相次いだ。現在もサービス利用中であるため、引き続き支援体制の構築と施設生活に馴染めるような体制作りにも努めたい。

特養・ショートステイ以外の事業所からの相談・苦情報告が少なかった。苦情が少ないのは良いことだが、潜在的な不満の把握が出来ていたのか、各事業所で利用者や家族の言葉を苦情として捉える意識があったかをもう一度見直していきたい。

【次年度に向けて】

利用者満足度調査の実施、目安箱・意見箱の常設、各事業所の相談・記録の徹底などに力を入れ、事業所横断的に相談・苦情内容の共通認識・共通理解を図るとともに、苦情の発生を未然に防止しサービスの質の向上に努めたい。

また、苦情対応規程の見直し、第三者委員の選任、接遇や苦情に対する評価（＝人事考課制度）の整備などは行えなかったため、他の委員会と連携しながら作成・普及を図っていきたい。

01-12 法人委員会 認知症ケア委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	認知症ケア委員会
対象年度	令和7年度
委員長氏名	赤沼妙子
副委員長氏名	川村潤
構成員数	8
開催回数	11
年間研修開催数	1

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
-----	-----	-----------	------	----

1	4月15日	認知症チームケア推進加算算定開始について	8	
2	5月20日	認知症専門ケア加算	6	
3	6月17日	アセスメントシート変更に伴う説明	8	
4	7月15日	特養における認知症チーム加算算定について	7	
5	9月2日	認知症専門ケア加算算定要件について/加算算定者の評価	8	
6	10月7日	BPSDの理解/加算の定義	8	
7	11月4日	BPSDに関する確認と復習/BPSDが起こる要因/対応とケアのポイント	8	
8	12月2日	SSにおける認知症専門ケア加算算定状況/認知症基礎知識の確認	8	
9	1月6日	BPSDの理解	6	
10	2月3日	BPSDの理解	8	
11	3月27日	BPSDの理解	8	
計	開催回数		11	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	令和7年5月	「認知症の種類」「中核症状とBPSDの理解」		全職員対象
計	年間研修開催数		1	回

● 総括・所感

【今年度の主な取り組み】

当初は認知症チームケア加算を算定する予定だったが、9月より短期入所における認知症専門ケア加算算定へ変更した。委員会では認知症の中核症状や、BPSDの理解を深めた上で内部研修を通し全体への周知が行えた。

【成果・できたこと】

認知症介護実践リーダー研修3名修了

ファーストステップ研修1名修了

美土里荘SSにおける認知症専門ケア加算（Ⅰ）算定開始

【課題・反省点】

一般的な認知症ケアや対応、BPSDの理解に関しては一定の成果を上げることが出来たが、より具体的な事例に対するアプローチが不足していた。

現在発生している事例の情報収集も不足していた。

【次年度に向けて】

認知症専門ケア加算算定要件を満たす為の研修への参加。

美土里荘特養における認知症専門ケア加算（Ⅰ）、GHにおける認知症チームケア加算（Ⅱ）算定を開始。

事例の情報収集方法の検討。

今年度、認知症リーダー研修を受講した介護員を委員会に加え、研修で学んだ内容を法人全体にフィードバックしたい。

01-13 法人委員会 生産性向上業務改善委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	生産性向上・業務改善委員会
対象年度	令和7年度
委員長氏名	盛田 一栄
副委員長氏名	米内山 淳子
構成員数	10
開催回数	10
年間研修開催数	0

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月16日	生産性向上の意義、効果測定対象者の選定、人事考課・キャリアパス、青森県介護サービス事業所認証評価制度へ向けて	9	
2	5月21日	各事業所からのICT化提案、組織体制・記録体制の整備、時間外手当支給の改善	10	
3	6月18日	青森県事業所認証評価制度の進捗、記録体制整備の進捗、ICT化提案書審議、デイ利用者欠席連絡の取扱	9	
4	7月16日	デイにおける介護ソフトでの連絡・伝達状況、今後を見据えたICT機器の検討、特養でのKINUAMI・GOKURI導入検討	9	
5	8月21日	特養でのGOKURI、KINUAMIデモ、デイ・GHでの事業所別課題分析の実施、	9	
6	9月17日	青森県事業所認証評価制度参加宣言、特養ICT機器導入支援補助金申請、デイ・GH課題分析、勤怠管理システム導入	7	
7	10月15日	ほのぼのNEXTクラウド化の使用方法	8	
8	11月19日	特養でのGOKURI、KINUAMI補助決定、シャワーボッド浴槽の導入・助成申請検討	10	都合により 書面開催
9	12月17日	生産性向上に取り組む必要性の説明、特養ICT機器導入報告、今後の方針説明	10	
10	2月18日	今年度の取組みの振り返り、年間検討事項の全体像、過剰サービスや時間外サービスの見直し	9	
計	開催回数		10	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
計	年間研修開催数		0	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

主に特養における ICT 機器の導入、業務効率化が図れたのは大きな進展であった。

【成果・できたこと】

1 年間の取組みを振り返ると、4 月と比べて多くの点で前進した。ICT 機器導入やクラウド化などハード面の基盤整備は一定の成果があった。一方で事業所間の意識差は課題として残る。特養以外の事業所の生産性向上・業務効率化・ICT 活用についても、職員の負担がかかりすぎないよう、無理のないペースで進めていく。

【課題・反省点】

青森県事業所認証評価制度が新規受付を停止していたため、宣言のみで終わってしまった。来年度は本格的に取り組みたい。

また人事考課・キャリアパスについても社会保険労務士等専門職を交えながら整備していく必要がある。

【次年度に向けて】

- ・過剰なサービスの見直し、営業時間外の電話対応の整理、お掃除ロボットの導入検討。
- ・適切な人員配置で従来のサービスを提供・加算算定を継続できるような体制づくり（ICT 機器の導入も含めて）。
- ・KUNUAMI 導入後の効果測定、GOKURI 導入後の加算算定を徐々に進めていく。
- ・デイ・GH の課題分析シートを用いて、来年度取り組むべき生産性向上内容について提案。
- ・人事考課・キャリアパス制度の整備。簡易なものからでも始めていく。接遇や研修出席率等、簡単なものに加え、事業所ごとの成果や業績を加味して賞与に傾斜をつける必要あり。
- ・特に特養介護職員・専門職の負荷増大に対する評価や何かしらのバックの検討。また人材不足解決のための目途をつける。
- ・法人としての“労働時間”の明確化、周知。

01-14 法人委員会 衛生委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	衛生委員会
対象年度	令和 7 年度
委員長氏名	盛田 一栄
副委員長氏名	作田 隆子
構成員数	10
開催回数	12
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月17日	年間衛生計画確認、長時間労働確認、衛生講話（花粉症）	6	
2	5月15日	長時間労働の確認、衛生管理者資格受験促進、衛生講話（メンタル不調の基礎知識）	6	
3	6月19日	長時間労働の確認、衛生講話（熱中症）、ストレスチェック予定、産業医の変更	9	
4	7月17日	長時間労働の確認、ストレスチェック進捗、衛生講話（加熱式タバコ）	8	
5	8月21日	長時間労働の確認、利用者生活環境の確認（室温検査実施）、衛生講話（食中毒）、新産業医の選定進捗	9	
6	9月18日	長時間労働の確認、衛生講話（睡眠の問題）、産業医の進捗状況	8	
7	10月16日	新産業医の紹介、令和7年度衛生管理計画の再確認、11月園内研修のテーマ、衛生講話（長時間労働の問題点）	6	
8	11月20日	11月園内研修の内容、長時間労働の実態、ストレスチェックの結果報告、衛生講話（職場でのハラスメント）	9	
9	12月18日	11月園内研修の報告、長時間労働の実態、二次健診受診状況、就業復帰者支援、衛生講話（アルコール依存症）	9	
10	1月29日	来年度衛生計画案、長時間労働の実態、衛生講話（生活習慣病）	10	インフルエンザ蔓延のため書面開催
11	2月20日	長時間労働の実態、年間活動報告、人事評価・インセンティブの在り方	10	
12	3月20日	長時間労働の実態、来年度衛生委員会活動計画案、衛生計画（花粉症対策）、セルフケア	6	年度最終
計	開催回数		12	回

● 会議開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	11月14日	メンタルヘルス研修 こころのカギ	38	全職員対象
2	11月21日	メンタルヘルス研修 こころのカギ	30	全職員対象
計	年間研修開催数		2	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

今年度は衛生講話を毎回開催し健康管理についての啓発に努めたほか、メンタルヘルス、二次健診含む職員健診の普及に力を入れた1年だった。

また利用者の生活環境整備のため、夏期に居室内の熱中症危険指数（WBGT）の測定を行った。来年度以降も継続して行いたい。

【成果・できたこと】

メンタルヘルスをテーマにした園内研修を2回実施し、法人の多くの職員に参加してもらうことができた。

また衛生講話の資料を各事業所で回覧することで心身の健康管理の重要性について啓発を図る事ができたと思う。

【課題・反省点】

メンタルヘルス対策を法人全体で行ったが、全体的に高ストレスという結果が出ており、今後の精神的・身体的負荷の軽減について検討を重ねる必要があると感じられた。

また職場内巡視を計画的に行うことができず、今後の在り方について考えて行きたい。

一方で当初依頼していた産業医が諸事情により降板され、新たな産業医を迎えることができた。衛生委員会にも毎回参加していただき、的確な助言をいただけているのでそれを活かした委員会活動を展開していきたい。

【次年度に向けて】

ストレスチェック結果に基づく職場環境の改善、二次健診受診率の向上、5S活動に基づいた職場内巡視の計画的実施を行い、より一層職員の健康増進を図りたい。

01-15 法人委員会 研修委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	研修委員会
対象年度	令和7年度
委員長氏名	川村彰子
構成員数	5

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

内部研修時の会場設営、参加受付、参加者学習シートの作成・回収とチェック。

【成果・できたこと】

問題なく実施できた。

【課題・反省点】

特になし。

【次年度に向けて】

特に問題なし。

令和 7 年度 事業報告

特別養護老人ホーム美土里荘

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

目次

- 02-01 特養総括
- 02-02 介護サブリーダー会議
- 02-03 介護リーダー会議
- 02-04 介護役職者会議
- 02-05 看護会議
- 02-06 専門職会議
- 02-07 特定技能担当者会議
- 02-08 特養役職者会議
- 02-09 事務会議
- 02-10 特養委員会_看取委員会
- 02-11 特養委員会_医療的ケア委員会
- 02-12 特養委員会_行事委員会
- 02-13 介護部門報告
- 02-14 医療部門報告
- 02-15 栄養部門報告
- 02-16 利用状況データ
- 02-17 収支・加算データ

1. 特養総括

特別養護老人ホーム美土里荘 年間総括

特別養護老人ホーム美土里荘（定員 70 名・ショートステイ併設）

令和 7 年度（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

施設長氏名	盛田 薫
副施設長氏名	盛田 一栄
作成日	令和 8 年 5 月 22 日

■ 事業概要

昭和 63 年 6 月 1 日設立。当初 50 名定員から、平成 26 年に増床し定員 70 名へ。令和 7 年度の入所率 90.2%。令和 6 年度より協力医療機関を公立七戸病院から医療法人藤仁会・工藤医院へと変更。また令和 6 年度介護報酬改定後より、算定可能な加算を順次算定開始している。

■ 年間総括（4 観点）

① 成果・できたこと

4 月より自立支援促進加算（280 単位/月）の算定を開始し、より安定経営に資する体制が構築できた。その他、令和 6 年度の介護報酬改定以降、可能な限りの加算を算定しており、収益増を図ることができた。

新たな加算の算定に向け、認知症介護実践者研修、並びに実践リーダー研修の参加・修了を進めることができた。この取組みは続け、新加算（認知症専門ケア加算Ⅰ）の算定に繋げて行きたい。

② 課題・反省点

入院・退所者が多く、年間で 1,400 日超の入院を出している。前年度比でも 1,000 人近く増加しており、著しく収入の機会を逸失しており、改善が急がれる。

また、職員の退職が相次ぎ残った者の負担が増えているほか、業務全体の見直しを余儀なくされた。現在のところ業務を遂行することはできているが、職員の負担軽減、評価体制（人事考課体制）を行い、努力している職員を評価するシステム作りが必要である。

③ 改善のための取組み

既に雇用している特定技能生の更なる業務範囲の拡大（夜勤への対応）、ICT 及び AI 活用による議事録・記録の簡素化と負担軽減。

入院数の増加に対しては、協力医療機関との協議の上で入院や看取り基準の再確認、事業所側の医療体制の強化などに取組み、入院者数の減少に努める。

④ 次年度の目標

新卒または特定技能生の新たな採用により人手不足を解消。

入院者数の減少。

算定可能な加算の厳選、そのための体制整備に取り組む。

■ 来年度に向けて（メッセージ）

特養始め介護サービスの収益の安定化（黒字化）については「利益追求」「理念と異なる」という否定的な意見もあるかと思うが、収支が安定しないと利用者の居場所の確保、職員の生活基盤の安定が図れず、引いては当法人の理念である『忠恕』の精神の体現も困難となる。今後とも可能な限りの加算を算定しつつ、生産性向上・業務改善に取り組む、少数精鋭の職員で最大の利益を上げられるよう努めて行きたい。

02-02 介護サブリーダー会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	介護サブリーダー会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	矢崎サブリーダー
構成員	介護サブリーダー全員
構成員数	4
開催回数	3
開催頻度	令和7年11月より月1回

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	11月18日	介護日誌様式の検討、排泄支援加算役割検討、介護業務検討	3	
2	12月8日	利用者ケア検討、事故対策評価確認、介護業務サブリーダー役割検討	4	
3	2月26日	業務可視化検討、来年度業務実施計画、食事介助者テーブル検討	5	

計	開催回数		3	回
---	------	--	---	---

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

・業務の改善を図る為の業務改善案の提案 ・各ブロック意見の擦り合わせと取りまとめの実施 ・ケアの統一が出来ていない箇所の洗い出しと再周知 ・ブロックメンバーのフォローと指導

【成果・できたこと】

現場の意見と共にサブリーダー間での情報共有や業務に対する検討を実施する為、サブリーダー会議というものを開催する事が出来た。業務改善案として各ブロックから出た意見を擦り合わせ反映させる事ができた。退職者4名出る事で業務の可視化を実施し一人一人の役割を明確化する事が出来た。ケアの統一を図る為の対策を検討し、周知へとつなげる事ができた。

【課題・反省点】

今年度のサブリーダー会議が年間予定表になかった。しかしサブリーダー同士で話し合える時間も各ブロック意見の擦り合わせや業務改善に向けた検討も出来なかった為、年度途中からサブリーダー会議の開催を設けてもらった。サブリーダー会議やブロック間で様々な意見交換や検討事項はできるが、サブリーダーの決定権がどこまでなのか分からず戸惑いがあった。ブロックメンバーフォローの指導とフォローが不十分であった。

【次年度に向けて】

各ブロックで取り組みを決め、ブロックメンバー個々に責任者を設けキャリアアップを目指した指導とフォローを図る。現場意見を共有・反映できるようサブリーダーとしてもキャリアアップを目指す。業務に関して即対応できるようサブリーダーとしての権限を明確化する。

02-03 介護リーダー会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	介護リーダー会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	赤沼妙子
構成員	介護リーダー全員・サブリーダー全員
構成員数	7
開催回数	12
開催頻度	月1回

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月4日	物品購入に関して、指示命令系統について、ショートステイの入浴日について	7	
2	5月6日	衣類修繕等に関して、毎月の手紙に関して、事故報告に関して入浴業務に関して、オムツの経費削減に関して	7	
3	6月3日	SS 通院の有償運送に関して、希望休に関して、実習生に関して	7	
4	7月1日	特浴時の着脱衣に関して、入浴時の記録に関して、業務改善に関して	6	
5	8月5日	他職種連携に関して、入浴介助に関して、ブロック会議のあり方に関して	7	
6	9月2日	服薬介助のやり方に関して、SS モニタリングに関して、面談時の対応に関して	7	
7	10月7日	記録に関して、車椅子クッション清掃に関して、排泄ケア用品の節約に関して	7	
8	11月4日	虐待発生に関して、虐待を予防するために、虐待の要因分析シート作成	7	
9	12月5日	Ic t 補助機器 KINUAMI・GOKURI に関して、特浴の実施の仕方に関して、利用者の処遇に関して(ケアの仕方) クッションの選定に関して	7	
10	1月6日	下膳時間に関して、SS 利用時の居室準備等に関して、来年度のブロックメンバーの構成に関して	6	
11	2月3日	業務可視化に関して、おむつ類の節約に関して、日勤リーダー業務に関して	7	
12	2月25日	業務の可視化に関して、新業務に関して、食事テーブル介助テーブルの検討	5	
13	3月3日	業務可視化に関して、入浴担当職員の割り振りに関して	7	
計	開催回数		13	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

多職種連携の向上

SS 業務の明確化(担当者等)

日勤・夜勤リーダーのルール構築。その上での業務の割り振り。

最低人員での業務効率化・生産性向上

オムツ交換の仕方変更・リハビリパンツ→ホルダーパンツへ移行してのコスト削減

より安全な特浴での着脱介助→スライディングボード使用しての移乗

各ブロックごとの役割構築(予防策の再評価)

【成果・できたこと】

昨年度、退職者が4名あった。しかし、人事異動等の補充もなかった事もあり、令和8年度の業務に関して再構築を行った。業務の可視化を行う事で、職員一人一人の勤務日の役割を明確化したこともあり、最低限の人員で業務の効率化・生産性の向上につなげることが出来た。また、日勤リーダーや夜勤リーダーの業務に関しても明確にすることで、今まで役割が曖昧であった SS 業務関しても抜けがなくなり、業務改善につながっている。他職種連携に関しては、

未だ課題が残る状況にはあるが、実施する事を明確化する事で以前に増し話し合いの内容に中身がで出来ている。その他、コスト削減に関してはオムツの使用数を削減し、数万円の節約が出来た。

【課題・反省点】

現状特に無し。今後もよりいっそう働きやすい現場を目指していく。

法人の方向性が明確でない為、入院者が増加傾向にあり減収の状況が続いている。→現場レベルでできる事、（福祉機器をより丁寧に扱う事・使用物品のコスト削減）の実施

【次年度に向けて】

次期リーダー。時期サブリーダーの育成に着手していく。

02-04 介護役職者会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	介護役職者会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	赤沼妙子（総括主任介護職員）
構成員	中嶋（介護主任） 呷（介護副主任）
構成員数	3
開催回数	12
開催頻度	月1

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月4日	介助員業務に関して、介護材料室の物品補充に関して、ブロック会議のあり方に関して	3	
2	4月18日	コスト削減に関して、勤怠管理に関して、夜間の看取りに関して	3	
3	5月11日	業務内容周知に関して、経費削減に関して	3	
4	5月21日	オムツ交換時間に関して、夜勤業務の見直しに関して	3	
5	6月3日	加算算定に関して、職員体制、退職者に伴う業務分担に関して	3	
6	6月18日	各ブロック会議からの意見検討、洗濯業務に関して、特浴の実施の在り方に関して	3	
7	7月16日	居室変更に関して、介助員業務に関して、各ブロック会議からの意見に関して	3	
8	8月5日	専門職との連携に関して、職員指導に関して、記録に関して	3	
9	8月21日	利用者に対する接遇マナーに関して、指導・面談 介助員の業務に関して	3	
10	9月9日	苦情対応に関して、面会開始に伴い注意事項、インカム使用に関して	3	
11	9月17日	洗濯業務に関して、認知症実践リーダー研修に関して	3	
12	10月7日	ほのぼの cloud 化に関して、臨時事故防止委員会の開催に関して、経費削減に関して、今後の勤怠管理に関して	3	

13	11月4日	ほのぼの cloud 化に関して、虐待に関して、今後の勤務体制に関して	3	
14	12月17日	18時以降の業務に関して、SS 時の福祉用具の準備に関して、ブロック再編成に関して	3	
15	1月30日	特養における line グループの作成に関して、勤怠システム導入に関して、来年度の業務に関して	3	
16		2月・3月に関しては、早急な業務可視化・業務の再構築の必要性有 介護リーダー会議と同時開催とした。		
計	開催回数		15	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

相談員業務の補助に関して(退職者に伴い)

職員の指導・マネジメントに関して

業務改善に関して

専門職・多職種との連携に関して

経費削減に関して

業務可視化→最低人員での生産性向上

勤怠。有休消化に関して

倉庫内の物品管理に関して

OJT の整備・定着化

【成果・できたこと】

相談員退職に伴い、業務の分担を図った。業務自体は定着してきている。しかし、以前相談員の補充はない状況は継続中。

職員指導・マネジメントに関しては、以前より定期的な面談を実施できた。また、ブロックごとの職員管理を図った。

業務改善に関しては、業務可視化によって必要最低限での人員での業務効率化を図る事ができた。

経費削減に関しては、オムツ等の見直しを図り削減できた。

勤怠管理。有休消化に関しては、一人 10 回の取得を目指して来た。4 月基準日の職員に関しては、概ね 10 日を超えて取得できていた。

倉庫の物品管理に関しては、現場での管理から事務所管理に移行できた。

【課題・反省点】

概ね取り組めたが、夜勤中の休憩に関して課題が残る、仮眠室・休憩室の整備を図る。

【次年度に向けて】

加算算定は、可能な限りの単位を取得しているが、法人内での方向性が定まっていないことから、稼働率の低下・減収が継続している。現場サイドとしては、消耗品の削減等によって経費

削減を継続していく。4名の退職者があったが、補充等もない状況にある。業務可視化によって、1日あたりの勤務者を抑え生産性の向上を図ったが、急遽の休み等があった場合の対処について、曖昧な状況にある。再度、ルールの構築・周知を図り、安定した現場運営を図っていく。また、職員の心身の安定も図る為、年間での有給取得数の向上を目指していく。

02-05 看護会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	看護会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	工藤和佳子(看護主任)
構成員	看護職員全員
構成員数	4
開催回数	12
開催頻度	月1回

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月22日	嘱託医変更に伴う対応について	4	
2	5月28日	服薬管理の手順見直し	4	
3	6月25日	服薬管理の手順見直し	5	
4	7月25日	処置について	4	
5	8月30日	処置について	4	
6	9月14日	多職種に確認事項	3	
7	10月22日	服薬管理の手順見直し	4	
8	11月28日	体調不良者受診対応について	6	
9	12月24日	他科からの一本化について	3	
10	1月31日	感染症対応、服薬について	3	
11	2月28日	感染症対応	2	
12	3月25日	新体制について	2	
計	開催回数		12	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

嘱託医変更により工藤医院のやり方に沿った動きをとらなければならない。回診の日程や時間調整をしたり、回診当日の診察対象者のバイタル測定、FAX準備が必要となった。工藤医院と連携を図るために数々のやり取りをした。服薬管理については長年の課題となっていた。看護師が服薬全てにおいて管理が出来るの理想ではあるが全利用者の服薬介助の負担は大きく看護師だけでは対応困難な状況であった。看護師の勤務時間を調整し、介護職員にも協力を得て本

館は看護師、南館は介護職員の対応で実施出来ている。宿直業務の追加があったことによりシフト調整が難しい場面もあるが何とか理解を得ながら対応出来ている。看護会議以外に、朝のミーティング時間を有効に使い話し合いを設けた。

【成果・できたこと】

令和 7 年度より七戸病院から工藤医院へ嘱託医変更、それに伴い薬局も天馬薬局へと変わった。工藤医院と数々の連絡・連携を図り 4 月スタートしたがこれまで大きなトラブルはなかった。服薬関連では、個人のお膳に看護師が薬をセットし、配膳に関わる職員が服薬介助をしてきていたが、やはり看護師がメインで服薬介助にあたるのが理想だと言う意見から本館は看護師が主体で服薬介助となった。南館は介護員主体でいく。総合的な面から看護師全員 8:00～17:00 勤務と大きく変え、シフト作成にも大幅な緩和となっている。

【課題・反省点】

令和 7 年 4 月から夜間オンコール体制に加え宿直業務も追加された。それぞれ家庭の事情もある中で宿直業務を受け入れてくれている。少ない人数でシフトを組んでいる状況である。夜間オンコールの一人当たりの回数も多い為、拘束時間が大きく、負担は増している。

【次年度に向けて】

看護会議は月 1 回設けているが急遽の受診が多く予定通りに出来ていない。今後も、その環境は変えることは難しいため、会議が困難な時は別日に設けて行うようにしていく。会議で話し合いが出来なかったものについては朝のミーティングの時間を有効に使っていきたい。服薬事故を防止するため、指差し呼称、ダブルチェックの徹底継続。声掛け合いでミスを防ぐ。中年年齢層であることから健康管理も第一にしていく。

02-06 専門職会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	専門職会議
対象年度	令和 7 年度
設置事業所	特養
会議責任者	統括生活相談員
構成員	統括生活相談員・生活相談員・介護支援専門員・管理栄養士・栄養士・機能訓練指導員
構成員数	6
開催回数	12
開催頻度	月 1 回

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月7日	栄養部門の業務精査 家族差し入れ対応の周知	4	
2	5月5日	事故発生時の相談員報告フローチャート作成	4	生活相談員退職
3	6月2日	生活相談員退職後の業務分担	5	
4	7月7日	家族差し入れ物品ガイドライン作成 SSにおける機能訓練体制加算算定	5	
5	8月4日	介護 ICT 導入 (KINUAMI、GOKURI) に関して	5	
6	9月8日	有償運送窓口一本化	5	9/1～事務所が担当
7	10月6日	家族差し入れ物品内容の修正検討 朝礼実施の検討	5	
8	11月7日	SS 認知症専門ケア加算（Ⅰ）の誤請求と未請求 の確認、再発防止検討	5	GOKURI と KINUAMI 補助決定
9	12月1日	入院者数増による稼働率低下対策検討	5	
10	1月4日	来年度特養アセスメント方式変更 サ担会議開催時間変更を検討	4	サ担開催は 9:00～変更
11	2月2日	部署間でのシフト作成方法の違い 介護員退職に伴う業務協力体制構築	5	朝昼食の下膳協力決定
12	3月2日	今年度の振り返りと来年度目標設定 家族面会再開の検討	4	
計	開催回数		12	回

● 総括・所感

【今年度の主な取り組み】

- ・SS 担当生活相談員退職後の業務整理を進め、専門職と事務所間での役割分担の見直しと明確化を行い、継続した業務運営体制の構築に取り組んだ。
- ・介護 ICT の導入および活用を推進し、ほのぼの NEXT データベースの活用や情報共有の効率化、業務負担軽減、多職種間連携の強化に取り組んだ。
- ・包括的アセスメントにおける食事・基本領域の詳細実施や、新ケアマネジメント・ケアプラン作成指導を通し、根拠に基づく介護過程の構築を進めた。
- ・退院時カンファレンスや新規入所カンファレンスについて、部署内周知の徹底や主任級職員を含めた勤務体制整備を検討し、円滑な連携体制構築に取り組んだ。
- ・介護人員不足時における専門職協力体制の整理を行い、現場支援体制の強化に努めた。
- ・SS 送迎体制について、有償送迎対応可能者の拡充や事務所一括管理体制を整備し、運営体制の見直しを進めた。
- ・SS 稼働率については、SS 利用と空床利用を区別した算出方法へ見直しを行い、現状分析の精度向上に取り組んだ。

【成果・できたこと】

・SSにおいて、包括的自立支援プログラム方式を取り入れた介護過程への見直しを進め、居室担当者業務の整理・再構築を行った。また、根拠に基づく介護過程を多職種で共有・実践しながら取り組むことで、職員間の理解促進とケアの質向上に繋げることができた。

・SSで新たに認知症専門ケア加算（Ⅰ）の算定を開始し、認知症ケアに対する専門性向上とサービス体制の充実を図ることができた。

・介護 ICT 導入を推進したことで業務負担軽減に一定の成果が見られ、現場業務の円滑化に繋がった。

【課題・反省点】

現場で発生している課題に対し、施設・法人としての理解や具体的な方向性の提示が十分とは言えない状況にある。専門職レベルで対応可能な課題については一定の対応ができているものの、特養・SSの稼働率に関する問題については、現在の主治医体制の見直しを含めた検討を行わなければ、安定した収益確保には繋がらないと考える。

また、単なるSS稼働率の低下ではなく、入院者数の増加に伴う空床発生が、現在の稼働率低下の根本的な要因となっている。さらに、SS担当生活相談員の退職後も補充がない状況が続いており、場当たり的な対応になっている印象は否めない。

一方で、専門職間や特養各部署との連携については、一定の成果や前進を感じている。しかし、施設・法人全体として振り返った際には、改善・反省すべき点も多く存在していると考え。その中で、専門職会議としての提案や発信についても、十分であったのか改めて検証する必要があると感じている。

【次年度に向けて】

特養におけるアセスメント方式の見直しとして、包括的自立支援プログラム方式の導入を実施し、利用者の状態把握やケアの質向上、根拠に基づく支援体制の強化を図る。

介護現場との連携を重視しながら、更なる介護 ICT 化を推進し、業務負担軽減、ケアの標準化に繋げていく。

稼働率の安定化に向けては、入院者数や空床発生要因の分析を行い、主治医体制の見直しを含めた具体的な改善策を提案し、安定した運営基盤の構築を目指す。

02-07 特定技能担当者会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	特定技能担当者会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	統括生活相談員
構成員	統括生活相談員・統括主任介護員・主任介護員・事務員

構成員数	4
開催回数	14（支援機関定期面談含む）
開催頻度	月 1 回

● 会議開催状況

No	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月24日	OJT 指導開始 施設歓迎会開催の検討	4	
2	5月14日	支援機関定期面談	3	腰痛予防ベルト支給決定 法人レベルでの賞与説明
3	5月22日	指導担当者ヒアリング	4	
4	6月26日	七戸秋祭り参加検討 出退勤ルート確認	4	寮 Wi-Fi 工事完了
5	7月24日	熊対策検討 介護入職後半年面談	4	歓迎会開催 管理職面談実施
6	8月19日	支援機関定期面談	3	七戸花火大会参加
7	8月28日	特定技能生医療費保険確認	2	
8	9月25日	希望休ルール再確認、腰痛予防ベルト支給、在留カード更新	4	七戸秋祭り参加 支援機関/老施協イベント参加
9	10月23日	近況報告	4	
10	11月18日	支援機関定期面談	3	年末控除確認 冬期送迎検討
11	1月23日	国際厚生事業団面談検討 支援機関/老施協イベント参加検討	4	スキー教室参加決定
12	2月17日	支援機関定期面談	3	支援機関/老施協イベント参加
13	2月26日	近況報告 来年度予定の夜勤業務内容精査		他会議重複により書面開催
14	3月26日	今年度の振り返りと反省 夜勤業務開始時期検討	4	使用車両不足の提起
計	開催回数		14	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

- ・OJT を導入し、1年間を通したマンツーマン指導を実施することで、介護業務の習得支援と現場定着に取り組んだ。
- ・定期的な個別面談を実施し、業務面だけでなく生活面や精神面を含めた継続的なフォロー体制を整えた。
- ・住環境整備や生活支援を行うとともに、毎月2回の買物支援を継続して実施し、安心して生活できる環境づくりに努めた。
- ・通勤路の確認や熊対策を実施し、冬期間については安全面を考慮した送迎対応を行うなど、生活・通勤支援体制の整備を進めた。
- ・支援機関や老施協主催イベントへ参加し、夏季・冬季を通じた交流機会の確保と地域理解促進に取り組んだ。

・青森県内観光や町内行事への参加支援を行い、十和田奥入瀬溪流、七戸花火大会、七戸秋祭りなどを通じて、地域文化への理解や日本での生活定着支援に繋げた。

【成果・できたこと】

- ・特定技能生受け入れに伴い、業務面ではOJT指導を基本として1年間のマンツーマン指導を実施し、介護業務の習得支援を行った。あわせて、日本人介護職員との関係性構築にも取り組み、円滑なチーム連携に繋げることができた。
- ・日本語能力についても想定以上の向上が見られ、利用者とのコミュニケーションも良好に行えるようになるなど、現場適応に一定の成果が見られた。
- ・生活支援面では、毎月2回の買物支援や寮環境の整備、自転車管理、使用車両の調整など、多岐にわたる支援を継続して実施した。当初は十和田周辺に限定されていた生活行動範囲も徐々に広がり、自立した生活支援へ繋げることができた。
- ・特定技能生の地域行事・交流会への参加支援などを通し、施設職員や地域との交流機会の充実にも取り組んだ。
- ・受け入れ当初は、特定技能生対応に不慣れな職員も多く見られたが、現在では特別な配慮を必要とすることなく、多くの職員が自然に協働できる環境が形成されていることが、大きな成果であるとする。

【課題・反省点】

現場での指導体制については、1年間を振り返り、大きな問題や重大な課題もなく、概ね円滑に運営できたものと評価している。

今後の課題として、毎月2回実施している買物支援については、これまで職員の私用車を使用し対応してきた。（荷物積載や小回りの面で利便性が高かったため）

来年度以降は使用継続が困難となる見込みである。

現在、法人公用車として実質使用可能なのはハイエースのみであり、青森市内や八戸市内など遠方への買物支援機会も増えている現状を踏まえると、今後さらに対応が難しくなる可能性がある。特に、大型車では駐車困難な場所も想定され、利用面での課題が残っている。そのため、来年度以降も新たな特定技能生の受け入れを継続していくのであれば、生活支援を含めた運営体制整備の一環として、専用車両の準備について検討して頂きたい。

また、実際に1年間対応してきた委員会としての意見や現場の状況を十分にヒアリングした上で、今後の方針決定を行っていただきたいと考えている。

本件については、施設内委員会としての課題提起に留まらず、法人施設全体として現状の問題点や課題を共有し、理解を深めていく必要があると考える。

【次年度に向けて】

- ・所属ブロック内における更なる関係性構築を図り、職員間の円滑なコミュニケーションと協力体制の強化を目指す。

- ・PC記録業務の理解と操作技術の向上を進め、正確かつ効率的な記録確認と作成が行えるようレベルアップを図る。
 - ・居室担当者業務の範囲を拡張し、利用者理解や個別支援への関わりを深めながら、主体的な業務遂行を目指す。
 - ・夜勤業務について段階的な習得と実施を進める。
 - ・日本語能力検定N3合格を目標とし、介護現場に必要な日本語理解力・コミュニケーション能力の更なる向上を目指す。
 - ・定期的な交流会を開催し、生活面・精神面を含めた継続的な支援と職員間交流の機会を確保する。
- ※来年度は隔月開催へ変更予定とするが、新たな特定技能生受け入れ時には、毎月開催を基本として対応する。

02-08 特養役職者会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	特養役職者会議
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
会議責任者	副園長
構成員	特養副園長、統括生活相談員、総括介護主任、看護主任、事務代表
構成員数	5
開催回数	12
開催頻度	月1回

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月25日	看取り介護加算の算定、家族差し入れの内容と周知、看護業務の精査、勤怠電子化と給与振込先の自由化	5	
2	5月31日	介護職員の勤務状況、回診への対応状況、マスク着用の任意化、入院者数増の交通認識、退院・事故対応の流れ	6	
3	6月27日	おむつ交換時間の変更、ホルダーパンツの検討、看護業務の見直し、今後の大型支出の見通し、面会制限の緩和	5	
4	7月25日	介助員の業務精査、加算算定に伴う各種研修受講、摘便表現の是正、インカムの活用、SS計画担当者の変更、介護ソフトのクラウド化	5	
5	8月29日	介助員の業務精査、職員への苦情対応、認知症介護加算の対応、ICT補助金助成検討、面会時の方法、インカム使用方法の再検討、利用者下ろし忘れ事故対応	5	
6	9月26日	通院運転時の対応、差し入れ内容検討、重大事故への対応、冬期宿直者対応	5	
7	10月31日	介助員の配置換え、ホルダーパンツ導入、医療事故・作業ミスの確認、SSの認知症専門ケア加算の管理方法、シャワーポッド浴の導入検討、介護ソフトクラウド化	5	

8	11月28日	回診日の休憩調整、発熱時の対応、バイタル漏れチェック、勤怠システム、マットレス等の管理方法、特定技能生の冬期送迎	5	
9	12月26日	介護業務の見直しと夜勤者による臥床介助、介護職員の復帰、回診時の看護職員休憩時間変更の効果、入院者対応と稼働率維持・業務効率化、セクション間のコミュニケーション	5	
10	1月30日	(感染症蔓延のため中止)	0	
11	2月26日	ホルダーパンツへの移行完了、入浴業務の効率化施行、退職に伴う人員不足への対応、夜勤体制の見直し、施設内点滴の検討開始、ケアマネアセスメントツールの変更、ウレタンマットレスの買い換え	5	
12	3月27日	夜勤体制の切り替え移行、夜勤の休憩時間取扱、特定技能生の夜勤、人員不足による全職種体制での業務協力、新加算算定の検討	5	
計	開催回数		12	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

特養の各セクションの取組み内容と課題の共有、法人からの意思伝達、経営課題への対応、新加算算定の体制打合せ、配置人員数を踏まえた業務改善の提案と実施などを積極的に行った。

【成果・できたこと】

特養の各セクション（管理職・専門職・介護職・看護職・事務職）の主任クラスが集まり横断的に情報共有・課題共有したことにより、互いの業務内容や進捗を理解することができ、業務改善案が多く出されるなど建設的な意見交換が多かった。

特にシャワーボッドの導入検討ほか ICT 補助金を活用しての機器導入、夜勤体制の在り方、看護業務の在り方などを具体的に検討し、成果に繋げることができた。

【課題・反省点】

運営管理会議（法人会議）が定期的に開催されていないこともあり、法人の意向や方針を明確にコアメンバーに伝達することができなかった。

【次年度に向けて】

運営管理会議の内容を伝達し、法人の方針を理解した上で業務改善・見直しに繋がられるよう努める。

また、各セクションからの要望や伝達を確実に上層部に伝え、よりスピーディに業務改善・効率化を図れるよう努める。

02-09 事務会議

● 基本情報

項目	内容
会議名称	事務会議
対象年度	令和7年度

設置事業所	特養
会議責任者	事務長
構成員	事務職員全員
構成員数	4
開催回数	9
開催頻度	随時開催(月1基本)

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月16日	事務内での情報共有方法、役職者会議の周知、各部署への提案、監事監査・評議員会等スケジュール確認、今年度の目標共有。	4	
2	5月27日	前回提案事項の振り返り、提案事項の結果、役職者会議報告、感染症対策緩和、新たな提案事項	4	
3	6月24日	南館倉庫の在庫点検、点検係の設定、給料支給日の変更の検討、小口現金のExcel入力状況	4	
4	7月22日	情報共有について連携、面会時差し入れの断り方、外線電話受電時のインカム返答への要望、請求間違いの反省	4	
5	8月26日	苦情受付時の対応、請求・支払いについての状況確認、事務長不在時の役割分担	4	
6	9月24日	面会者用のイス準備、10月の事務室勤務、振込先変更、未払い者への滞納について	4	
7	10月3日	看取りカンファレンス内容報告、給料日変更と給料振込先変更の対応期日設定、福祉有償サービスの注意点、ほのぼのクラウド化、特定技能生の送迎	4	
8	11月25日	入所利用者の通院対応、差し入れについて、新介助員について、給与規程の変更、特定技能生の送迎、勤怠システムの導入、収支状況の確認	4	
9	3月21日	各種送迎について、外部業者対応、4月からの南館下膳・食事分量データ入力	4	
計	開催回数		9	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

今年度は定期的に事務会議を行う体制を整えたとともに、

- (1) 勤怠管理システムの導入
- (2) 給与支給日の変更
- (3) 給与振込先の自由化
- (4) 利用料引落日の変更
- (5) 年末調整の電子化

を中心に検討を重ねていった。

【成果・できたこと】

年度当初目標に挙げたもののうち、(2)給与支払日の変更、(3)給与振込先の自由化は実施する事ができた。また(1)勤怠管理システムの導入も令和8年度内に実施する目途がついている。

定期的に事務会議を行うことで、事務部門で生じた疑問を集約し、特養管理職会議などに挙げたり、他職種に相談することができた。

【課題・反省点】

検討を重ねた結果(4)利用料引き落とし日の変更は、他職が作成する計画書等の関係から見送ることとなった。また、(5)年末調整の電子化は取組みが進んでいない。

【次年度に向けて】

今一度組織図を見直し、事務部門内及び他セクションとの連絡・連携体制の構築に努める。

勤怠管理システムの導入についてはスケジュール、使用方法、ルールの説明に努め、混乱なく現在の勤怠管理体制から移行できるよう配慮を続ける。

02-10 特養委員会 看取委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	看取委員会
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
委員長氏名	米内山淳子
副委員長氏名	長久保紗紀
構成員数	6
事務局担当	
開催回数	13
年間研修開催数	1

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月19日	委員会設置目的、活動内容	5	
2	4月24日	看取り介護の流れの確認	7	
3	5月16日	研修テーマの検討	6	
4	7月20日	協力医療機関との情報共有について	6	
5	8月19日	工藤医院との連携方法について	7	
6	8月23日	看取り介護流れの変更点について	5	
7	9月22日	終末期が近いと思われる利用者について	5	
8	10月20日	看取り介護実施中利用者の状況確認	6	
9	11月21日	〃	4	
10	12月20日	〃	5	
11	1月30日	〃（書面開催）		
12	2月20日	看取りマニュアルの確認	5	
13	3月20日	看取り介護実施中利用者の状況確認（書面開催）		
計	開催回数		13	回

● 研修開催状況

No.	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	7月11日	看取りケアの流れ、対応について		施設職員対象
2	7月18日	看取りケアの流れ、対応について		施設職員対象
計	年間研修開催数		2	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

今年度より協力医療機関が変更となり、看取りについて医療機関との連携方法が具体的に決める事がないままとなっていたため、医療機関と施設で協議する場を設けた話し合い後から概ねスムーズに実施することが出来るようになった。

看取り実施利用者8名。

看取り介護実施の流れの見直し、夜間対応時のマニュアル作成。

【成果・できたこと】

○最後が近いと判断したタイミングで、本館多床室の利用者を南館の個室に移動することで、夜間の対応がスムーズに出来、本人と家族がゆっくり過ごす時間を作ることが出来た。

○南館シャワー室の1つを、付き添いを希望する家族用とした。

○委員会会議において、看取り介護実施中の利用者の状況確認を行うことで、各メンバーからの提案等でケアの見直し等を行うことで、より本人の苦痛軽減を行う事ができた。

【課題・反省点】

○協力医療機関との情報共有

・病院側の窓口（対応職員 医療連携室）が決まっていない為か、施設からの問い合わせに対する回答の内容が違ふことがある。

・ムンテラの内容について、施設側に情報がなく、施設が本人・家族への対応でトラブルとなることがあった。

○『看取り』を正しく理解できていない家族への啓蒙活動（勉強会等）

○多床室から個室に移動した際の個室料の未算定

【次年度に向けて】

○多床室から個室に移動した際の個室料金算定

○利用者家族、地域住民を対象とした勉強会開催（要検討）

02-11 特養委員会 医療的ケア委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	医療的ケア委員会
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
委員長氏名	蛭名 ゆかり
副委員長氏名	青木 郁美
構成員数	7
事務局担当	
開催回数	6
年間研修開催数	2

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	4月28日	資料的ケアの確認、喀痰吸引指示書・同意書・計画書の方針、褥瘡予防の評価項目決定、内部研修内容	6	
2	6月23日	吸引器の置き場所、新たな喀痰吸引指示者、褥瘡利用者の改善報告、内部研修内容	5	
3	8月25日	経管栄養・喀痰吸引トラブルなしの報告、喀痰吸引施工時のチェック表、内部研修内容	6	
4	10月27日	経管栄養・喀痰吸引トラブルなしの報告、喀痰吸引指示書2名追加、内部研修実施後の反省、褥瘡ある方の処置内容	4	
5	12月22日	経管栄養・喀痰吸引トラブルなしの報告、喀痰吸引指示書1名追加、褥瘡者完治の報告	5	
6	2月23日	経管栄養・喀痰吸引トラブルなしの報告、医療的ケアが必要な利用者の確認、今年度の振り返り	5	
計	開催回数		6	回

● 研修開催状況

No	実施日	研修テーマ	参加人数	備考
1	9月12日	褥瘡ケア・スキンケア・喀痰吸引についての研修	34	講師：公立七戸病院認定看護師・西谷恵理子氏
2	9月19日	同上	34	同上
計	年間研修開催数		2	回

● 総括・所感

【今年度の主な取り組み】

喀痰吸引等業務、及び褥瘡ケアについて中心的に対応を協議した。特に、医師より新たな喀痰吸引等指示が出された時の内容と情報共有、褥瘡患者の処置方針と状況報告について随時情報共有を図った。

【成果・できたこと】

公立七戸病院より褥瘡ケア専門看護師の外部講師を招き、研修を実施することができたことは、職員に褥瘡ケア・スキンケア等の大切さ、重要性を啓発する良い機会だったと思う。

また随時情報共有を図り、喀痰吸引や褥瘡ケアについて必要な対応方法を統一することにより、トラブルなく終えることができた。

【課題・反省点】

特定の講習を終えた介護職員が喀痰吸引ができるのは口腔内・鼻腔内までであるが、特に夜勤帯に気管まで管を挿入しての吸引が必要な利用希望者もあり、入所受入を断らざるを得ない時もあった。制度上やむを得ないことであったが、新規入所希望者の医療的アセスメントはより重要であると感じた。

また青森県から喀痰吸引等実地研修施設の承認を得ているにも関わらず、人的不足や業務体制の変更と重なり、介護福祉士資格を取得した者の喀痰吸引実地研修を行うことができなかった。

【次年度に向けて】

介護福祉士資格取得者に対する喀痰吸引等実地研修の実施方法の確立

02-12 特養委員会 行事委員会

● 基本情報

項目	内容
委員会名称	行事委員会
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
委員長氏名	鶴ヶ崎莉帆
副委員長氏名	下川原将太、前田祥子
構成員数	5
事務局担当	
開催回数	5
年間研修開催数	0

● 会議開催状況

No.	開催日	主な議題・検討事項	参加者数	備考
1	5月26日	年間行事の開催予定を検討する。	5	
2	7月28日	夏祭りの反省、今後の行事の検討をする。	4	
3	9月22日	敬老会の反省、今後の行事の検討をする。	3	
4	11月22日	新年会についての検討する。	5	
5	3月24日	今年度の反省、来年度の目標を決める。	2	
計	開催回数		5	回

● 総括・所感

【今年度の主な取組み】

夏祭り、秋祭り見学、敬老会を企画・実施する。

【成果・できたこと】

年間3件の企画し行事实施する。数少ない行事でもご利用者は喜んで笑顔が見られていた。

【課題・反省点】

目標は年間6件の行事だったか3件しか実施できなかった。新年会を企画していたが感染症の流行で実施できずに終わってしまった。

【次年度に向けて】

・人員不足のため全体で集まっての行事は難しい。全体で集まるのは敬老会のみにし、外出等の少人数で行えるものを中心に実施していく。

02-13 介護部門報告

● 基本情報

項目	内容
報告者（介護主任）氏名	赤沼妙子
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
介護部門人員（年度末時点）	32
介護リーダー数	3
介護サブリーダー数	4
新規採用者数（年度内）	0
退職者数（年度内）	4

● 事故ヒヤリ月別

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
事故 - 転倒	10	3	2	1	2	3	4	5	3	9	4	5	51
事故 - 臥床時転落	2	3		2	2	3	6	3	8	9	7	2	47
事故 - 座位時転落	5	2	3	6	2	4	1	1	4	7	2	5	42
事故 - 強打	3	4		1		4	5	3		1	1	1	23
事故 - 誤嚥・窒息		2				1			1	2			6
事故 - 異食・誤飲	1								1		1		3
事故 - 服薬関係	1		2	2	1	2	4	1	2			1	16
事故 - 離脱													0
事故 - 火傷													0
事故 - 溺水													0
事故 - その他	3	4	3	11	6	6	5	2	10	3	8	3	64
事故 小計	25	18	10	23	13	23	25	15	29	31	23	17	252

ヒヤリ - 転倒	30	16	8	12	13	4	8	3	5	1	3	1	104
ヒヤリ - 臥床時転落	7	12	5	2	5	7	2	3	1		1	2	47
ヒヤリ - 座位時転落	22	17	11	10	10	1	6	4			3		84
ヒヤリ - 強打	4					2		1					7
ヒヤリ - 誤嚥・窒息	2			1	2		2	1			1	1	10
ヒヤリ - 異食・誤飲	1	2	2			3			2				10
ヒヤリ - 服薬関係		1	2	1			4			2			10
ヒヤリ - 離設				1		1	1						3
ヒヤリ - 火傷													0
ヒヤリ - 溺水													0
ヒヤリ - その他	9	4	7	3	3	7	9	2	1	7	8	6	66
ヒヤリ 小計	75	52	35	30	33	25	32	14	9	10	16	10	341
合計	100	70	45	53	46	48	57	29	38	41	39	27	593

● 事故ヒヤリ分析

【発生傾向の分析】

臥床時転落、座位時転落共に同一の利用者に集中しているケースが多く見られた。また、離床や着脱時の負荷により骨折に至ったケースあり。

服薬関連の事故が昨年より増加←落薬に対する意識の高まりから増加した。

【重大事故の振り返り】

11月の骨折事故を契機に下肢筋力低下、関節拘縮のある方への移乗介助の見直しを行った。

事故発生時間を分析・業務の見直しを行った。以降、多発時間の事故の件数減少。

【現場の取組みと成果】

再発予防策を各ブロックごとの管理とし、定期的な見直しを図った。

曖昧な予防策ではなく、より具体的な予防策を検討するよう指導し、曖昧な予防策が減った。

利用者のADLに合わせ、福祉用具を活用しての移乗介助を推進した。(ノーリフティングケア)

【次年度の課題】

新人研修・OJTの標準化。

確実かつ迅速な情報共有の仕組化

環境整備の日常業務化

介護技術の確認チェック制度の実施

業務の平準化→ヒューマンエラーの改善。

他職種との連携強化。

業務の優先順位の明確化。

介護事故＝マイナス→プラス化

● 相談苦情月別

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
相談	2	4	5	3	8	11	4	4	4	5	4	5	59
苦情	8	5	5	4	2	2	1	1	7	1	8	11	55
利用者間トラブル	1	1	5	2		2	4	3	14	20	4		56
合計	11	10	15	9	10	15	9	8	25	26	16	16	170

● 相談苦情分析

【相談・苦情の傾向】

サービスの質、接遇についての苦情が増加。

数字のみに着目すると、現場職員の接遇・マナーの問題のみに着目しがちではあるが、昨年度までは、「苦情報告」に対する意識が低く、苦情を苦情と捉えていない傾向があった。今年度に関しては、職員間での「苦情」に対する意識が高まった結果と考えるられる。

【対応プロセスの振り返り】

家族、利用者への説明と謝罪。施設内のルールが曖昧で対応にばらつきがあった為、ケアの統一と全体への周知を行った。

【現場の改善取組み】

施設内の苦情発生時の対応ルールが曖昧であった。ほのぼのを活用した記録とした。職員間での周知がよりスムーズとなり、ばらつきのあった対応を統一する事が出来た。利用者間トラブルについては、居室変更、食事席変更等を行った。

【次年度の課題】

虐待防止委員会を主体とし、定期的な振り返りチェック・職員の接遇マナーの研修の継続。

職員のストレスケアの重視～休憩室・仮眠室の整備、定期的な面談等の実施→職員のメンタル面への配慮。

1日あたりの職員の業務量の平準化

特養において、出来る事・出来ない事の明確化→ご家族・本人への説明

● 介護部門総括

▶ 令和7年度 介護部門事業計画の達成度評価

No	事業計画の重点項目	取組内容・実績	達成度	備考・課題
1	ノーリフティングケアの推進	移乗ボードの導入増加	B	職員の負担減・移乗での介護事故減
2	看取りケア		C	嘱託医との連携
3	利用者の生活の質向上	他職種連携	B	他職種との情報共有・連携

【今年度の成果】

新規入所・SS利用時の前日準備ルールを試験導入し、受入準備の標準化を進めた。アセスメントおよびモニタリング手順を整理することで、継続的な状態把握体制強化に繋げた。また、SS利用時の荷物確認方法や私物管理方法を見直し、管理体制改善を進めた。さらに、服薬介助の看護対応移行に向け、安全性向上を目的とした運用整理を実施した。KINUAMI 使用手順整備やデータ収集、備品表示統一を実施し、現場で統一した運用が行える体制整備を進めた。業務の可視化を図り、最低人員での業務効率化を達成。

【課題・反省点】

- ・4名の退職者あり、法人内での異動・補充なし、2月より人員不足による業務の負担が増えた。(待機・夜勤・宿直増)
- ・待機の定義についての再構築・周知(上層部→特養役職者会議→介護役職者会議→リーダー会議→各ブロック)
- ・急遽の休みの場合の勤務変更に関して周知できていなかった。

【次年度に向けて】

- ・新人や中堅の育成と定着率の向上。
- ・特定技能生含むOJT体制の標準化・育成計画の推進
- ・人事異動の推進・異動候補者の可視化(ボトムアップ) 現状報告の場の設置。人員数・稼働率の可視化 介護現場→特養役職者会議→運営管理会議
- ・更なる業務可視化。業務の平準化・時間の使い方の効率化→時間外業務の減少
- ・現場職員のモチベーション維持(職員間での交流の場の構築・提案)
- ・職員のストレスケアの重視～休憩室・仮眠室の整備、定期的な面談等の実施→職員のメンタル面への配慮。

02-14 医療部門報告

● 基本情報

項目	内容
報告者(看護主任)氏名	工藤和佳子(看護主任)
対象年度	令和7年度
設置事業所	特養
看護職員数(年度末時点)	4
嘱託医	工藤医院 工藤要一医師
新規採用者数(年度内)	0
退職者数(年度内)	0
夜間オンコール体制	常勤看護師が交代で対応

● 通院状況

科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
内科	9	13	35	19	9	18	12	18	17	49	17	20	236
外科	0	2	3	1	2	2	0	1	2	0	1	0	14
整形外科	1	0	0	4	1	2	5	6	3	3	2	3	30
皮膚科	2	1	1	2	3	10	5	6	6	9	4	4	53
眼科	0	0	2	0	0	2	1	0	1	1	2	0	9
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	4
泌尿器科	1	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	7
精神科・心療内科	12	5	5	6	5	6	6	5	9	8	7	8	82
その他			2	2	2	16	2	4	1	3	1	2	35
合計	25	22	49	35	22	57	33	40	40	73	36	38	470
往診（参考）	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	25

● 看取り件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
看取り（施設内）	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	2	7
看取り（病院搬送後）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	2	7

▶ 看取り介護加算 算定状況（参考）

区分	算定 件数	備考
看取り介護加算Ⅰ 45～31日	28	死亡日 45日～31日前算定（72単位）
看取り介護加算Ⅰ 30日～4日	98	死亡日 30日～4日前算定（144単位）
看取り介護加算Ⅰ 前日・前々日	13	死亡日前日・前々日算定（680単位）
看取り介護加算Ⅰ 当日	7	死亡日当日算定（1,280単位）

● 健診・接種

▶ 利用者の健康診断・予防接種

項目	実施月	対象 者数	実施 者数	実施 率	備考
健康診断（年1回）	3.4月	66	66	1	
胸部レントゲン	3.4月	66	66	1	
インフルエンザ予防接種	11.12月	48	48	1	希望者を対象者数とする
新型コロナワクチン接種	11.12月	41	41	1	希望者を対象者数とする
带状疱疹ワクチン	8.9月	8	8	1	希望者を対象者数とする
肺炎球菌ワクチン		0	0		

▶ 職員の健康診断・予防接種

項目	実施月	対象 者数	実施 者数	実施 率	備考
インフルエンザ予防接種	10.11月	78	78	1	しちのへクリニック

● 入退院一覧

▶ 年間集計（自動計算）

区分	件数	備考
入院（年間総数）	53	
退院後施設復帰	32	入院後、治癒し施設に戻られた方
入院後退所	4	入院をきっかけに退所となった方
入院継続中	2	3月末現在で入院中の方
入院中死亡	18	入院中、医療機関で亡くなった方
看取り	7	施設内で看取りのため亡くなられた方

▶ 年間データ詳細（入院及び看取り）

No.	入院日	性別	年齢	病名	入院先	退院日	退院時状況	備考
A	3月17日	男	95	左足蜂窩織炎	七戸病院	5月2日	復帰	
B	3月17日	女	99	胆管炎	七戸病院	4月24日	死亡	死亡退所
C	4月3日	女	87	食欲低下	高松病院	6月27日	退所	高松病院で継続治療
D	4月4日	女	96	肺炎	工藤医院	6月6日	復帰	
E	4月24日	女	96	消化管出血疑い 心不全	工藤医院	5月23日	死亡	死亡退所
F	4月28日	女	85	肺炎	工藤医院	5月19日	復帰	
G	4月30日	男	92	閉塞性大腸炎・逆流性食道炎・誤嚥性肺炎	十和田中央病院	5月12日	復帰	
H	5月3日	女	93	肺炎	工藤医院	5月31日	復帰	
I	5月20日	男	97	肺炎 左腰部蜂窩織炎	工藤医院	6月3日	復帰	
J	5月23日	男	87	誤嚥性肺炎	工藤医院	6月14日	復帰	
K	5月31日	女	97	肺炎	工藤医院	7月18日	復帰	
D-2	6月14日	女	95	誤嚥性肺炎	工藤医院	7月1日	復帰	
A-2	6月19日	男	95	肺炎	工藤医院	7月5日	復帰	
L	7月1日	女	92	肺炎	工藤医院	7月18日	復帰	
M	7月8日	男	87	肺炎	工藤医院	7月18日	復帰	
D-3	7月18日	女	97	心筋梗塞	救急搬送（七戸病院）	7月18日	死亡	死亡退所
N	7月26日	女	92	肺炎	工藤医院	8月20日	復帰	
O	7月26日	女	92	肺炎	工藤医院	7月29日	死亡	死亡退所
P	7月26日	男	87	肺炎	工藤医院	8月15日	復帰	
Q	8月30日	男	72	腎不全	十和田中央病院	9月19日	死亡	死亡退所
L-2		女	92	老衰	工藤医院	9月19日	看取	施設看取り
R	9月19日	女	100	脳梗塞	工藤医院	10月30日	死亡	死亡退所
S	9月30日	男	92	重症肺炎	七戸病院	9月30日	死亡	死亡退所
K-2	10月1日	女	97	肺炎	工藤医院	10月22日	復帰	
T	10月3日	男	100	肺炎	工藤医院	1月6日	死亡	死亡退所
U	10月6日	男	72	左肺炎	工藤医院	10月22日	復帰	
V		女	97	老衰		10月9日	看取	施設看取り
W	10月12日	男	79	てんかん	七戸病院	10月30日	復帰	
X	10月23日	男	87	誤嚥性肺炎	工藤医院	1月16日	復帰	
K-3	10月29日	女	97	肺炎	工藤医院	11月19日	復帰	
Y	10月30日	女	87	肺炎	工藤医院	11月22日	復帰	

H-2	11月7日	女	94	肺炎	工藤医院	12月23日	死亡	死亡退所
Z		女	95	老衰	工藤医院	11月16日	看取	施設看取り
AA	11月17日	女	74	子宮留膿腫、卵管膿瘍	工藤医院	12月12日	復帰	工藤医院→県病
AB	11月25日	女	92	右人工関節周囲骨折	七戸病院	12月26日	復帰	手術
F-2	11月27日	女	85	肺炎	工藤医院	12月13日	復帰	
R-2	11月27日	女	100	肺炎	工藤医院	11月27日	死亡	死亡退所
AC		女	88	老衰	工藤医院	12月23日	看取	施設看取り
AD		男	90	老衰	工藤医院	12月30日	看取	施設看取り
AE	1月7日	女	90	インフルエンザ A	工藤医院	1月28日	死亡	死亡退所
AF	1月8日	男	84	インフルエンザ A	工藤医院	1月19日	復帰	
G-2	1月8日	男	92	インフルエンザ A	工藤医院	1月21日	復帰	
AG	1月8日	女	92	肺炎	工藤医院	1月29日	死亡	死亡退所
AH	1月9日	男	89	呼吸状態悪化	工藤医院	2月6日	死亡	死亡退所
AI	1月9日	女	84	インフルエンザ A	工藤医院	1月20日	復帰	
P-2	1月15日	男	87	インフルエンザ A	工藤医院	2月21日	復帰	
X-2	1月17日	男	87	肺炎	工藤医院	3月31日	退所	天寿園へ
AJ		女	84	誤嚥による窒息	十和田中央病院	1月17日	死亡	死亡退所
AK	1月19日	女	90	インフルエンザ A	工藤医院	1月26日	復帰	
AL	1月20日	女	80	左大腿骨頸部骨折	十和田中央病院	2月6日	復帰	手術
AM	1月24日	女	93	脱水	工藤医院	3月19日	退所	こだまへ
AN		女	90	老衰	七戸病院	1月26日	死亡	死亡退所
N-2	1月29日	女	92	脳梗塞	工藤医院	2月2日	死亡	死亡退所
U-2	2月2日	男	72	肺炎	工藤医院	2月6日	死亡	死亡退所
A0	2月12日	男	71	急性胃腸炎	工藤医院	2月25日	復帰	
Y-2	2月17日	女	87	気管支肺炎	工藤医院	4月17日	復帰	
AP		女	93	老衰	工藤医院	3月9日	看取	施設看取り
AQ		女	95	老衰	七戸病院	3月10日	死亡	死亡退所
P-3	3月10日	男	88	誤嚥性肺炎	工藤医院		継続中	R8/3/31 現在 入院中
AR	3月14日	女	97	肺炎	工藤医院		退所	こだまへ
K-4	3月17日	女	98	肺炎	工藤医院	4月11日	復帰	
G-3		男	93	老衰	工藤医院	3月27日	看取	施設看取り
AS	3月28日	女	100	気管支肺炎	工藤医院		継続中	R8/3/31 現在 入院中

● 感染症 3 年比較

▶ 新型コロナウイルス

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6
令和6年度	10	3	0	0	0	0	2	0	0	0	4	3	22
令和7年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶ インフルエンザ

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和 7 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	16
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	----

▶ ノロウイルス・感染性胃腸炎

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
令和 5 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 6 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 7 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶ 疥癬

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
令和 5 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 6 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 7 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶ その他

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
令和 5 年度	18	19	19	13	24	25	32	18	29	15	16	47	275
令和 6 年度	19	11	11	14	27	24	28	23	32	18	20	22	249
令和 7 年度	26	22	22	35	22	58	33	40	40	66	35	38	437

● 医療部門総括

▶ 令和 7 年度 医療部門事業計画の達成度評価

No	事業計画の重点項目	取組内容・実績	達成度	備考・課題
1	利用者の状態変化に気づきアセスメントし対応	内科受診件数が非常に多くなっている。	A	
2	家族へ意向を踏まえた適切な対応	受診前後の連絡を細かに行った。	A	
3	利用者の急変対応や職員への指導	急変件数が多く、様々な職員が対応できていた。	A	
4	医療機関との連絡・調整・連携	大きな問題なく連携が図れた。	B	
5	各委員会と協力し事故防止・感染対策に努める	大きな事故や感染 BCP 発令なかった	B	

【今年度の成果】

令和 7 年度より七戸病院から工藤医院へ嘱託医変更、それに伴い薬局も天馬薬局へと変わった。工藤医院と数々の連絡・連携を図り 4 月スタートしたがこれまで大きなトラブルはなかった。服薬関連では、個人のお膳に看護師が薬をセットし、配膳に関わる職員が服薬介助をしてきていたが、やはり看護師がメインで服薬介助にあたるのが理想だと言う意見から本館は看護師が主体で服薬介助となった。南館は介護員主体でいく。総合的な面から看護師全員 8:00～17:00 勤務と大きく変え、シフト作成にも大幅な緩和となっている。年末年始から発熱が増え

インフルエンザ A が流行した。呼吸器症状増悪により 6 名の利用者がインフルエンザ合併症で入院となった。感染者は 22 名と療養期間が明けるまで約 2 か月かかったが感染 BCP 発令までには至らなかった。この規模で終息を迎えられて良かったと評価する。

【課題・反省点】

令和 8 年 4 月より嘱託医が工藤医院に変更となりこれまでの有症受診よりも大幅な受診件数となった。インフルエンザ抗原検査を施設内で行うことが出来なくなったことにより有症者を受診することも大きく影響している。看護師 3 人での感染蔓延状況の対応は困難を極めていると考える。今後も感染と隣り合わせで対応していかなければならない。一日で多数の発熱者が出ても、その中でアセスメントし優先順位をつけ受診対応出来たことは評価したい。今後は負担軽減となる体制作りが課題である。

【次年度に向けて】

利用者の健康と安全を維持するためには、職員ひとり一人が、身体面、精神面が健康でなければならない。忙しさの中でも、リフレッシュ休暇を上手に取り入れ仕事の on、off が出来る環境を作っていく。利用者の状態変化に気付く力、急変時のスムーズな対応や現場職員への的確な指示力、指導力をそれぞれが高めていきたい。

02-15 栄養部門報告

● 基本情報

項目	内容
報告者（管理栄養士）氏名	工藤鮎美
対象年度	令和 7 年度
設置事業所	特別養護老人ホーム美土里荘
管理栄養士・栄養士数	2
調理員数（年度末時点）	5
委託の有無	委託（日清医療食品）
提供食数（1 日あたり）	朝 72 食/昼 72/夕 72 食
食事形態の種類	常食、粗刻み食、刻み食、ミキサー食

● 栄養量月別

栄養素	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間平均
エネルギー (kcal)	1,638	1,645	1,621	1,613	1,635	1,598	1,616	1,619	1,615	1,622	1,623	1,624	1,622
たんぱく質 (g)	60.2	59.5	58.9	59.5	59.3	58.8	59.8	57.7	57	59.2	59.5	60.4	59.2
脂質 (g)	48.5	49.7	47.9	46.7	48.1	45.5	47.6	49.2	48.2	48.1	48	47.1	47.9
炭水化物 (g)	254	253.6	252.6	252.7	255	249.6	248	246.8	251.5	252.4	253	253.5	251.9
食塩相当量 (g)	7.5	7.5	7.4	7.4	7.5	7.4	7.5	7.4	7.4	7.3	7.4	7.4	7.4
カルシウム (mg)	748	769	742	724	702	716	719	725	707	740	737	731	730
食物繊維 (g)	21.9	22.2	22	21.8	22	17.4	16.4	15.1	19.7	22	21.9	21.9	20.4

▶ 給与目標栄養量（参考）

栄養素	給与目標栄養量	実際の年間平均	達成率	備考
エネルギー (kcal)	1,565	1,622	103.7%	
たんぱく質 (g)	52.2	59.2	113.3%	
脂質 (g)	43.5	47.9	110.1%	
炭水化物 (g)	247	251.9	102.0%	
食塩相当量 (g)	6.7	7.4	110.8%	
カルシウム (mg)	635	730	115.0%	
食物繊維 (g)	18	20.4	113.1%	

● 行事食

No.	実施日	行事名	主なメニュー
1	5月5日	子供の日	桜えびご飯、キッチンカツ、菜の花の和え物、静岡産お茶プリン、味噌汁
2	7月7日	七夕	ぶっかけ卵めん、星型ハンバーグ、七夕ゼリー
3	7月19日	土用丑の日	あなごちらし、茶わん蒸し、抹茶プリン、お吸物
4	8月13日	お盆	赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶わん蒸し、和風抹茶プリン、お吸物
5	9月20日	敬老会	赤飯、松風焼、茶碗蒸し、抹茶ミルクババロア、お吸物
6	10月31日	ハロウィン	海老ピラフ、かぼちゃ挽肉フライ、紫芋ようかん、ポトフ風具沢山コンソメスープ
7	12月25日	クリスマス	キッチンライス、星のハンバーグ、ポテトサラダ、クリスマスデザート、コーンクリームスープ
8	12月31日	年越し膳（昼）	赤飯、煮しめ、茶碗蒸し、和菓子、味噌汁
9	12月31日	年越し膳（夜）	かき揚げそば、肉じゃが、桜大根
10	1月1日	お正月	ご飯、刺身、数の子盛り合わせ、紅白なます、お吸物
11	2月3日	節分	ちらし寿司、鶏肉と大豆のやわらか煮、和風きなこプリン、味噌汁
12	2月14日	バレンタイン	ご飯、ハートのハンバーグ、人参サラダ、チョコムース、コンソメスープ
13	3月3日	ひな祭り	桜ちらし寿司、菜の花の煮浸し、青梅ゼリー、お吸物
計	実施回数		13

● 栄養部門総括

▶ 令和7年度 栄養部門事業計画の達成度評価

No	事業計画の重点項目	取組内容・実績	達成度	備考・課題
1	「おいしい食事」を提供する	委託業者と連絡調整し、おいしい食事の提供ができた。	B	少数の利用者からは不満が聞かれた。
2	利用者の状態に合わせた食事形態の選定や栄養管理を行う	GOKURIの導入や多職種の意見を取り入れることで、前年度よりも個々に合わせた対応ができた。	B	GOKURIの使用が管理栄養士に偏っていた。
3	行事食の提供	行事食の提供は好評だったが毎月の実施ではなかった。	B	献立内容が偏っていた。
4	看取りケアへの取り組み	食事摂取ができる状態のうちに嗜好品等の提供ができなかった。	C	最期まで食を楽しんでいただけなかった。
5	多職種連携の徹底	多職種でのミールラウンドや委員会の設置によって前年度よりも連携する機会が増	B	

	え、よりよい食事の提供ができた。	
--	------------------	--

【今年度の成果】

- ・ 給与目標栄養量はほぼ達成できたが、食塩相当量が目標量より高くなってしまった。
- ・ 行事食は利用者からの反応が良く、毎回好評だった。
- ・ GOKURI の導入によって利用者の数値化された嚥下能力や嚥下状態を把握でき、個々に合わせた水分提供ができた。
- ・ 口腔衛生管理にて、利用者の口腔状態の維持や改善ができた。歯科医師の助言で新規の義歯作成や義歯調整を適宜行い、食事形態のアップに繋がった。

【課題・反省点】

- ・ 全利用者に GOKURI を実施できなかった。
- ・ 情報の確認ミスで、違う食事形態を提供してしまうことがあった。誤嚥等の事故には至らなかった。
- ・ 低栄養状態のリスクに大きな数値の変化はないが、入退院者の増加とともに中リスク者と高リスク者が増えた傾向であった。(令和 7 年 4 月：低リスク 48%/中リスク 48%/高リスク 4%→令和 8 年 3 月：低リスク 40%/中リスク 50%/高リスク 10%)
- ・ 看取り介護者への食のアプローチが不十分だった。

【次年度に向けて】

- ・ 利用者からの食事の不満や献立内容の調整は早急に委託業者へ連絡し、改善してもらう。
- ・ 全利用者へ GOKURI を使い改訂水飲みテストを実施する。より安全に経口摂取ができるよう多職種で GOKURI を利用していく。
- ・ 低栄養状態高リスク者や入院した利用者へ、早期に栄養ケアの介入をする。
- ・ 看取り介護開始となった際は嗜好品等の提供を速やかに行う。
- ・ 行事委員会と連携するなどして、食事の楽しみを施設内だけではなく外出の機会等設けて増やしていければと思う。

02-16 利用状況データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	特別養護老人ホーム美土里荘
対象年度	令和 7 年度
定員	70
報告者氏名	盛田 一栄
データ抽出日	46, 148
データ抽出元	介護ソフト

● 月別入退所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間/ 平均
新規入所者数	2	2	1			1	3	3	2	2	3	6	25
退所者数	1	1	1	2		3	1	2	3	5	3	5	27
うち死亡退所（看取り）								1		1			2
うち死亡退所（医療機関）	1	1		2		3	1	1	3	4	3	2	21
うち長期入院・他施設移行			1									3	4
月末入所者数	63	65	66	64	66	65	63	62	65	58	61	60	63.2
入所率（%）	90.0%	92.9%	94.3%	91.4%	94.3%	92.9%	90.0%	88.6%	92.9%	82.9%	87.1%	85.7%	90.2%

● 入退所 3 年比較

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
新規入所者数	23	25	25	0
退所者数	21	25	27	8.0%
うち死亡退所（看取り）	19	11	7	-36.4%
うち死亡退所（医療機関）	1	14	14	0
うち長期入院・他施設移行	2	0	4	
年度末入所者数	65	67	65	-3.0%
年間平均入所者数	67.1	67.2	63.2	-6.0%
年間平均入所率（%）	95.9%	96.0%	90.2%	-6.0%

● 出身地別

市町村	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	構成比（R7）
七戸町	59	56	55	84.6%
十和田市	4	6	5	7.7%
東北町	1	5	4	6.2%
六戸町			1	1.5%
野辺地町	1			0
合計	65	67	65	1

● 要介護認定

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末
要支援 1													0
要支援 2													0
要介護 1													0
要介護 2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護 3	10	9	10	10	10	10	9	8	8	7	8	9	9
要介護 4	27	28	27	24	27	26	28	26	30	26	29	30	30
要介護 5	25	27	27	28	27	27	24	26	25	23	22	19	19
合計	63	65	66	64	66	65	63	62	65	58	61	60	60
平均要介護度	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1

● 要介護度 3 年比較

要介護度	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	前年度比
要介護 2	5	1	2	1
要介護 3	19	11	9	-18.2%
要介護 4	26	29	30	3.4%
要介護 5	25	28	19	-32.1%
合計	75	69	60	-13.0%
平均要介護度	3.9	4.2	4.1	-11.7%

● 年齢分布

年齢階層	男性	女性	合計
65 歳未満			0
65～69 歳		1	1
70～74 歳	4	2	6
75～79 歳	1	3	4
80～84 歳	4	7	11
85～89 歳	4	10	14
90～94 歳	1	14	15
95～99 歳	2	8	10
100 歳以上		4	4
合計	16	49	65

● 平均年齢 3 年比較

項目	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	前年度差
平均年齢（全体）	88.4	88.3	87.6	-70.0%
平均年齢（男性）	82.1	83.9	83.2	-65.0%
平均年齢（女性）	90.1	89.6	89.1	-52.0%
最高齢	101.8	102.8	103.8	1
最年少	68	69	68.7	-30.0%

02-17 収支・加算データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	特別養護老人ホーム美土里荘
対象年度	令和 7 年度
報告者氏名	盛田 一栄
金額単位	千円
データ抽出元（収支）	会計ソフト
データ抽出元（加算）	ほのぼの NEXT
データ抽出日	46, 149

● 月別収支

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
収入	25,127	27,899	26,482	26,523	28,509	26,536	25,844	24,013	24,985	27,564	22,194	24,891	310,573
支出	20,510	26,849	37,770	23,540	18,754	23,999	20,886	22,857	38,059	22,416	25,364	26,226	307,237
収支差額	4,616	1,049	-11,287	2,982	9,754	2,537	4,957	1,156	-13,073	5,147	-3,170	-1,335	3,336
サービス活動収益計	310,573												
サービス活動費用計 〔減価償却費等 反映後〕	327,870												
うち 減価償却費	26,809												
うち 国庫補助金等特別積立金取崩額	-5,991												
サービス活動増減差額〔年間最終収支〕	-17,296												

● 収支3年比較

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
経常活動収入	288,781	301,970	310,573	2.8%
経常活動支出	300,457	313,925	327,870	4.4%
経常活動収支差額	-11,676	-11,955	-17,297	44.7%
収支率（収入対比）	-4.0%	-4.0%	-5.6%	-1.6%

● 収支分析

【収入の状況】

算定加算の増加により増収の体制は整えることができたが、一方で入院者・入院後退所者の増加により稼働率の低下が著しく、結果的に減収となってしまった。

【支出の状況】

事業費についての支出が大きく、給食委託費が年間6,370万円超と突出して高くなっている。令和8年8月に食費基準額・居住費の引き上げがあるとはいえ、例年値上げが避けられない業務委託費にどう対応するか大きな課題である。一例として、おやつ提供時間と夕食の提供時間が近いため、おやつ代を業務委託費から外しそのぶん食事のクオリティを上げる、おやつは自己負担にする、などの対応が求められる。

【特に変動が大きかった要因】

協力医療機関が変更になった影響か、入院者の数が顕著に増加しており収入に大きな影響を与えている。年間を通じた入院者数は令和5年度には延べ341人（月平均28.4人）だったのが、協力医療機関変更後の令和6年度は440人（同36.6人）、令和7年度は1,408人（同117.3人）と増加している。

【次年度の課題】

既に雇用している特定技能生の更なる業務範囲の拡大（夜勤への対応）、ICT及びAI活用による議事録・記録の簡素化と負担軽減。

入院数の増加に対しては、協力医療機関との協議の上で入院や看取り基準の再確認、事業所側の医療体制の強化などに取組み、入院者数の減少に努める。

新卒または特定技能生の新たな採用により人手不足を解消。

入院者数の減少。

算定可能な加算の厳選、そのための体制整備に取り組む。

● 加算算定状況

No.	加算名称	算定単位数	算定開始時期	備考
1	個別機能訓練加算Ⅰ	12 単位/日	R6. 10	常勤の機能訓練指導員を配置し計画的に訓練をしている場合
2	個別機能訓練加算Ⅱ	20 単位/月	R6. 10	計画書の内容等のデータを厚生労働省（LIFE）に提出している場合
3	個別機能訓練加算Ⅲ	20 単位/月	R7. 1	口腔衛生管理・栄養マネジメントと一体的に計画作成している場合
4	看護体制加算Ⅰロ	4 単位/日		常勤の看護師を1名以上配置している場合
5	看護体制加算Ⅱロ	8 単位/月		看護職員が一定以上、かつ基準を1名以上上回っている場合
6	夜勤配置加算Ⅲロ	16 単位/日		夜勤職員を1名以上基準より多く配置し、喀痰吸引が可能な職員がいる場合
7	口腔衛生管理加算Ⅱ	110 単位/月	R6. 11	歯科医師等が月2回以上利用者の口腔管理を行い、LIFEに提出している場合
8	日常生活継続支援加算Ⅰ	36 単位/日		一定要件を満たす新規利用者、または介護福祉士が一定以上配置されている場合
9	協力医療機関連携加算Ⅰ	50 単位/月	R6. 4	協力医療機関を定め緊急時対応等の取り決めをしている場合
10	高齢者施設等感染対策向上加算Ⅱ	5 単位/月	R6. 4	医療機関から3年に1回以上感染症に罹る実地指導を受けている場合
11	生産性向上推進体制加算Ⅱ	10 単位/月	R6. 4	生産性向上活動に取組み、ICT導入等を行っている場合
12	経口維持加算Ⅰ	400 単位/月	R6. 11	嚥下障害がある利用者に医師又は歯科医師の指示で多職種で計画を作成した場合
13	栄養マネジメント強化加算	11 単位/日	R6. 4	管理栄養士・栄養士を一定以上配置し栄養ケア計画を作成・実施している場合
14	外泊時費用	246 単位/日		入院や外泊等をした場合に基本報酬に代えて算定
15	排せつ支援加算Ⅰ	10 単位/月	R3. 4	排せつ介護が必要な利用者を定期的に評価し、LIFEに提出、ケアを提供した場合
16	自立支援促進加算	280 単位/月	R7. 4	医師が自立支援の評価を行い、対象者に計画作成・ケアを提供している場合
17	科学的介護推進体制加算Ⅱ	50 単位/月	R3. 4	利用者のADL情報や医療的情報をLIFEに提出している場合
18	初期加算	30 単位/日		初めて利用開始された日から30日間のみ算定
19	退所時情報提供加算	250 単位/回	R6. 4	施設から医療機関に入院した際に、必要な情報を提供した場合（1人1回まで）
20	安全対策体制加算	20 単位/回	R6. 4	外部研修を受けた安全対策担当者が配置され対策をとっている場合（入所時のみ）
21	療養食加算	6 単位/回	R3. 4	医師の食事箋に基づき特別食を提供した場合、1食毎に算定
22	看取り介護加算Ⅰ	72 単位/日	R6. 4	看取り対象かつ同意をいただいた方について死亡日以前31～45日の期間に算定。

23	看取り介護加算Ⅰ	144 単位/日	R5.11	同上、死亡日以前4～30日の期間に算定。
24	看取り介護加算Ⅰ	680 単位/日	R5.11	同上、死亡日前日・前々日に算定
25	看取り介護加算Ⅰ	1,280 単位/日	R5.11	同上、死亡日当日に算定
26	再入所時栄養連携加算	200 単位/回	R7.2	特別食を必要とする利用者が退院する際、医療機関の管理栄養士と連携し栄養ケア計画を策定した場合
計	算定中の加算数			件

● 未算定加算と方針

No	加算名称	未算定の理由	今後の方針・対応
1	経口維持加算Ⅱ (100 単位/回)	食事の観察及び会議等に医師・歯科医師等が関わる必要あり	協力歯科医療機関と相談し体制を構築することを検討
2	認知症専門ケア加算Ⅰ (3 単位/日)	認知症介護リーダー研修修了者が定員に対して不足	同研修への参加を推進し、要件を満たし次第算定開始予定
3	生活機能向上連携加算Ⅱ (100 単位/月)	外部医療機関等の理学療法士等との連携体制が構築されていない	協力医療機関もしくは対応可能な医療機関に相談し算定の可否を検討
4	配置医師緊急時対応加算 (325 単位/650 単位/1,300 単位/回)	配置医師が緊急時（夜間等）に駆けつける体制が確立されていない	協力医療機関へ相談し算定の可否を検討
5	看取り介護加算Ⅱ (死亡日前日・前々日/780 単位、死亡日 1,580 単位)	配置医師緊急時対応加算を算定していない	同上

▶ 加算算定の総括（次年度に向けた方針）

令和6年度に続き、7年度も新たな加算を算定することができ、安定経営のために多少は寄与できた。

また、職員数は減ったものの工夫により前述の加算算定は可能であると考えられるため、年間を通じて算定のための協議や体制構築を検討し、来年度も新たな加算の算定を目指したい。

令和 7 年度 事業報告

短期入所生活介護事業報告書

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

目次

- 03-01 ショート総括
- 03-02 ショート利用状況データ
- 03-03 ショート収支・加算データ

1. ショート総括

ショートステイ 年間総括

美土里荘短期入所生活介護事業所

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）

管理者氏名	盛田 薫
作成日	令和7年5月22日

■ 事業概要

特別養護老人ホーム美土里荘と併設されている（介護予防）短期入所生活介護事業所。定員13名＋特養空床利用型で指定。

■ 年間総括（4観点）

① 成果・できたこと

ショートステイ利用の依頼があってから実際の利用までの過程がスムーズになり、利用希望者やケアマネを待たせることが少なくなった。また、利用平均要介護度が3.02と初めて3を超え、在宅の中程度要介護者の受入れについても寄与することができた。

加えて新たな加算（機能訓練指導員配置加算）も算定開始することができた。

② 課題・反省点

ショートステイ単独で見ると稼働率が低下しており、充足率が100%を下回っている月も多く、年間稼働率は99.7%に留まった。特養入所者の空床を利用可能である以上、100%以上を目指すべきであった。

③ 改善のための取組み

特養入所者の空床利用枠をより活用できる体制・仕組み作りが重要となる。現状、ショートステイ受入を担当する相談員が1名であるため対応可能な職員の育成、職員同士の連携、随時（空きができたらいいつでも）利用希望者の確保、より迅速に利用開始するための情報共有体制の確立、などが挙げられる。

同時に毎月の稼働率を数値化して把握し、都度対策を練る必要がある。

④ 次年度の目標

年間平均稼働率 100%超を目指す。同時に、随時利用希望者の確保、各居宅への空床情報の提供などを行う。

特養または他施設入所待ちの長期利用者については、特養利用者と変わらない一体的なサービスの提供を心がける。

■ 来年度に向けて（メッセージ）

ショートステイは家族・支援者のレスパイト（休息）、介護者の事情、特養等他施設の入所待ち等、さまざまな理由で利用を希望される方が多い。そのため迅速な情報収集と共有が必須であり、可及的速やかに受入できるような体制が求められる。

介護報酬の違いにより特養入所者の空床枠を短期入所利用者と補填してもカバーは仕切れないが、空床利用をしないとそれ以上の損失が計上される。そのため、空床利用の促進を図る必要がある。

03-02 ショート利用状況データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	美土里荘短期入所生活介護事業所
対象年度	令和 7 年度
定員	13
報告者氏名	盛田 一栄
データ抽出日	2026 年 5 月 7 日
データ抽出元	ほのぼの NEXT

● 月別利用状況

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間/ 平均
延べ利用日数	382	345	423	389	397	384	410	395	418	410	384	396	4,733
実利用者数（月内）	19	20	17	21	23	20	24	20	19	18	20	20	241
1 人あたり平均利用日数	20.1	17.2	24.9	18.5	17.3	19.2	17.1	19.8	22	22.8	19.2	19.8	19.6
稼働率（%）	97.9%	85.6%	108.5%	96.5%	98.5%	98.5%	101.7%	101.3%	103.7%	101.7%	105.5%	98.3%	99.7%
新規利用者数（月別）	8	13	5	12	17	10	13	14	8	9	8	9	126

● 利用 3 年比較

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
年間延べ利用者数	5,556	5,329	4,733	-11.2%
年間実利用者数	267	267	241	-9.7%
1 人あたり平均利用日数	20.8	20.0	19.6	-1.6%
年間平均稼働率（%）	117.1%	112.3%	99.7%	-11.2%

年間新規利用者数	123	148	126	-14.9%
----------	-----	-----	-----	--------

● 要介護認定

▶ 令和 7 年度

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
要支援 1													0
要支援 2					4								4
要介護 1	39	36	38	39	47	42	68	33	31	24	28	34	459
要介護 2	161	66	56	58	79	84	110	77	68	67	93	109	1,028
要介護 3	60	115	150	150	109	82	93	127	131	150	126	150	1,443
要介護 4	122	128	179	135	151	146	108	121	135	138	109	72	1,544
要介護 5				7	7	30	31	37	53	31	28	31	255
合計	382	345	423	389	397	384	410	395	418	410	384	396	4,733
平均要介護度	2.7	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	2.8	3.1	3.3	3.2	3.0	2.9	3.0

▶ 令和 6 年度

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
要支援 1													0
要支援 2													0
要介護 1	33	23	7	7	11	14	6	26	7	20	7	23	184
要介護 2	190	190	180	192	197	199	193	189	180	213	179	152	2,254
要介護 3	175	177	189	185	137	119	99	97	89	80	81	63	1,491
要介護 4	85	84	104	100	110	113	103	137	125	116	119	132	1,328
要介護 5	5	7	8	4	3	27	6			5	7		72
合計	488	481	488	488	458	472	407	449	401	434	393	370	5,329
平均要介護度	2.7	2.7	2.8	2.8	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.8	2.8	2.8

▶ 令和 5 年度

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
要支援 1													0
要支援 2													0
要介護 1	40	36	30	47	35	35	55	41	25	6	1	4	355
要介護 2	122	98	162	195	192	222	222	188	192	245	197	239	2,274
要介護 3	136	103	71	50	51	70	103	115	140	138	131	132	1,240
要介護 4	199	200	157	157	165	137	92	106	127	120	114	94	1,668
要介護 5	3	6							3	3		4	19
合計	500	443	420	449	443	464	472	450	487	512	443	473	5,556
平均要介護度	3.0	3.1	2.8	2.7	2.8	2.7	2.5	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.8

● 要介護度 3 年比較

要介護度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
要支援 1	0	0	0	
要支援 2	0	0	4	
要介護 1	355	184	459	149.5%
要介護 2	2,274	2,254	1,028	-54.4%
要介護 3	1,240	1,491	1,443	-3.2%
要介護 4	1,668	1,328	1,544	16.3%

要介護 5	19	72	255	254.2%
合計	5,556	5,329	4,733	-11.2%
平均要介護度	2.8	2.8	3.0	23.9%

● 利用パターン

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
緊急利用件数（年間）	9	7	18	157.1%
連続利用 30 日（上限）の日数	3,818	3,598	3,128	-13.1%
送迎を行った回数	183	186	99	-46.8%

03-03 ショート収支・加算データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	美土里荘短期入所生活介護事業所
対象年度	令和 7 年度
報告者氏名	盛田 一栄
金額単位	千円
データ抽出元（収支）	会計ソフト
データ抽出元（加算）	ほのぼの NEXT
データ抽出日	2026 年 5 月 6 日

● 月別収支

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
収入	4,282	3,482	4,640	5,334	4,823	4,443	4,531	4,176	5,718	4,784	4,136	5,137	55,490
支出	3,747	3,533	6,636	4,158	3,358	4,200	3,692	4,073	6,737	4,092	4,471	4,582	53,284
収支差額	534	-51	-1,996	1,175	1,464	242	839	103	-1,018	691	-335	554	2,206
サービス活動収益計	55,490												
サービス活動費用計 〔減価償却費等 反映後〕	53,332												
うち 減価償却費	52												
うち 国庫補助金等特別積立金取崩額	-45												
サービス活動増減差額〔年間最終収支〕	2,158												

● 収支 3 年比較

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
経常活動収入	62,243	60,206	55,491	-7.8%
経常活動支出	48,239	50,551	53,332	5.5%
経常活動収支差額	14,004	9,655	2,159	-77.6%
収支率（収入対比）	22.5%	16.0%	3.9%	-12.1%

● 収支分析

【収入の状況】

収入は昨年度に比べ大幅な減収となった。新たに機能訓練指導員配置加算の算定はできたものの、減収のカバーには至らなかった。

平均稼働率は100%を下回り、特養の空床利用の指定も受けている当事業所としては100%超を目指すべきであった。

【支出の状況】

支出については特養と割合に応じて按分している部分もあり、短期入所単独で目立った物品の購入等、支出増の要因となるものはなかったが、特養同様人件費・業務委託費の増加が目立った。

【特に変動が大きかった要因】

特養での入院者（＝空床増）に対応しての空床利用型短期入所の利用促進が思わしくなかった。入院や退所は予め予見することが難しく、また希望者も少ないため空床の補填が思うように行かなかった。

【次年度の課題】

年間平均稼働率100%超を目指す。同時に、随時利用希望者の確保、各居宅への空床情報の提供などを行う。

特養または他施設入所待ちの長期利用者については、特養利用者と変わらない一体的なサービスの提供を心がける。

ショートステイは家族・支援者のレスパイト（休息）、介護者の事情、特養等他施設の入所待ち等、さまざまな理由で利用を希望される方が多い。そのため迅速な情報収集と共有が必須であり、可及的速やかに受入できるような体制が求められる。

介護報酬の違いにより特養入所者の空床枠を短期入所利用者で補填してもカバーは仕切れないが、空床利用をしないとそれ以上の損失が計上される。そのため、空床利用の促進を図る必要がある。

● 加算算定状況

No.	加算名称	算定単位数	算定開始時期	備考
1	機能訓練体制加算	12 単位/日	R7.7	
2	サービス提供体制加算Ⅱ	18 単位/日		介護福祉士が常勤換算で60%以上
3	夜勤職員配置加算Ⅲ	15 単位/日		喀痰吸引等を行える介護職員を夜勤帯に配置
4	認知症専門ケア加算Ⅰ	3 単位/日		指定の講習を終えた者を一定数配置し、認知症日常生活自立度Ⅲ以上の方にケアを提供した場合。
5	生産性向上推進体制	10 単位/月		ICT 機器の活用や委員会の開催など、生産性の向

	加算Ⅱ			上に寄与する取組みをしている場合。
6	療養食加算	8 単位/回		医師の食事せんに基づき特別療養食を提供した場合、1 食につき。
7	緊急短期入所受入加算	90 単位/日		居宅サービス計画に挙げられていない短期入所サービスを急遽利用となった場合。
8	長期利用提供減算	▲30 単位/日		短期入所サービスを 30 日を超えて利用した場合。
9	送迎加算	184 単位/回		利用者宅と事業所間の送迎を行った場合、1 回につき。
計	算定中の加算数		9	件

● 未算定加算と方針

No	加算名称	未算定の理由	今後の方針・対応
1	生活機能向上連携加算Ⅰ (100 単位/月)	外部医療機関等の理学療法士等との連携体制が構築されていない	協力医療機関もしくは対応可能な医療機関に相談し算定の可否を検討
2	看取り連携体制加算 (64 単位/日、死亡日以前 7 日まで)	短期入所利用者への看取り対応体制の整備	同上、施設内における耳取対応者受入の啓発
3	口腔連携強化加算 (50 単位/月)	歯科医師または歯科衛生士との相談体制の未確保、文書取り交しなし、情報共有体制の未確立	協力歯科医療機関への主旨説明、評価体制及び情報共有体制の確立

▶ 加算算定の総括（次年度に向けた方針）

概ね可能な加算は算定しているが、算定可能と思われる加算はいくつか考えられる。いずれも協力医療機関が関係してくるため丁寧に依頼事項や業務内容を整理し、説明・同意を得ていく必要がある。また、職員の退職も相次ぎ 1 人あたりの負担も増えているため、加算算定が職員負担の増大にならないよう慎重に判断していく必要がある。

令和 7 年度 事業報告

通所介護事業報告書

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

04-01 デイサービスデータ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	美土里荘デイサービスセンター梓
事業区分	通所介護事業／介護予防・日常生活支援総合事業 第1種通所事業
対象年度	令和7年度
定員	30
営業日	月～土（日曜定休）
報告者氏名	戸来 渉
管理者氏名	戸来 渉
介護職員数（年度末時点）	6.4
看護職員数（機能訓練指導員兼務）	1
新規受入件数（年度内）	24
終了件数（年度内）	34

● 収支3年比較

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
経常活動収入	70,944	66,591	63,199	-5.1%
経常活動支出	64,166	59,504	66,485	11.7%
経常活動収支差額	6,778	7,087	-3,286	-146.4%
収支率（収入対比）	9.6%	10.6%	-5.2%	-15.8%

▶ 所感（収支の傾向と要因）

収入減少の要因は、利用実績数の減少、7月からの個別機能訓練加算算定休止などマイナス要因が重なった結果と思われます。支出増加の要因として、世界情勢の影響による光熱費や送迎燃料費の高騰や人件費増加等が挙げられます。収支差額や収支率の低下は、同年度にこれら様々な要因が重なったことが要因と考えます。

● 延べ利用者数等

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
年間延べ利用者数（人）	8,174	7,669	7,362	-4.0%
1人あたり平均利用額（千円）	8.7	8.7	8.6	-1.1%

▶ 所感

前年比連続での減少となりましたが、主な要因は、利用者の都合や体調不良による当日のキャンセル・入院・短期入所等の併用利用やその延長により、予定通りの利用者数や利用率にならない事です。これらは事業所努力で改善できるものではありません。

● 1 日平均・利用率

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
1 日平均利用者数（人）	22.5	24.8	23.7	-110.0%
利用率（%）	75.0%	82.7%	79.0%	-3.7%

▶ 所感

前年比ではマイナスとなりましたが、利用率の全国平均は 70% 弱であるため、これらの変動は許容範囲内と考えます。主な要因は、利用者や家族の都合による都合や体調不良による当日のキャンセル・入院・短期入所等の併用利用やその延長により、予定通りの利用者数や利用率に至らない事です。これらは事業所努力で改善できるものではありませんが、予定人数の確保に努めている所です。予定人数は定員に対し、92～97%を維持しています。

● 月別 1 日平均

月	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
4 月	22.1	26.3	24.7	-160.0%
5 月	24.2	26.4	24.4	-2
6 月	24	26.5	24.2	-230.0%
7 月	23.4	25.1	25.3	20.0%
8 月	22.7	23.4	24	60.0%
9 月	22.6	25	24.8	-20.0%
10 月	22.1	25.2	25.5	30.0%
11 月	22.4	24.3	23.6	-70.0%
12 月	20.8	24.4	21.4	-3
1 月	20.6	23.9	22.1	-180.0%
2 月	22.9	23.6	22.8	-80.0%
3 月	22.4	23.1	21.9	-120.0%
年間平均	22.5	24.8	23.7	-104.2%

▶ 所感

毎年、12月～3月の冬期間に利用者数減少の傾向があります。主な要因は、体調不良による当日キャンセル・入院者・施設入所者の増加となります。

● 要介護度別

要介護度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
要支援 1	286	269	340	26.4%
要支援 2	953	1,009	787	-22.0%
要介護 1	2,219	2,681	2,790	4.1%
要介護 2	3,336	2,612	2,397	-8.2%
要介護 3	1,184	750	708	-5.6%
要介護 4	83	242	203	-16.1%
要介護 5	113	106	137	29.2%
合計	8,174	7,669	7,362	-4.0%

▶ 所感

基本的に要支援1～要介護3の利用者がメインとなっていますが、要支援2と要介護2の利用者減が影響していると思われます。また、近年は独居や高齢者のみの世帯の増加により、要介護軽度者（要介護1～2）の施設入所割合も高くなってきています。

● 行事報告

実施月	行事名	参加者数	実施日	内容・所感
4	桜を見る会	123	R7.4.21～ R7.4.26	桜の開花状況により、十和田市官庁街通り周辺や旧の小川原湖周辺のお花見ドライブを実施。毎年、多くの利用者が喜ばれています。
6	NAMIKI ジェラート ト（外食行事）	122	R7.6.9～ R7.6.14	お好みのジェラートを食べながら、牧場の景色や動物を見たりすることができ、好評です。近場のため、乗り物が苦手な利用者にも好評です。
9	NAMIKI ジェラート ト（外食行事）	137	R.7.9.8～ R.7.9.13	利用者から好評のため、今年度は回数を増やしました。ジェラートを食べながら、牧場の景色や動物を見たりと楽しまれました。

● アクティビティ

No.	アクティビティ名	概要
1	塗り絵	様々な絵に思い思いの色を集中して塗ることで脳の活性化や認知症予防を図る
2	計算問題	利用者にあったレベルの計算問題を提供し脳の活性化や認知症予防を図る
3	創作活動	季節の装飾、レクリエーション用品などを利用者と職員共同で作る
4	パズル	個々のレベルに合わせたパズルを行い、集中力と脳の活性化を図る
5	マッサージ	椅子型のマッサージ器を使用し、適度な刺激とリラックス効果を図る
6	ステップマシン	自転車の要領でステップを踏むように上下肢を同時に動かし、上下肢の屈伸運動を行う
7	散歩	屋内外を歩行し運動することで、心身の活性化と歩行の安定化を図る（熊対策により、中止）
8	介護予防体操	参加可能な利用者全員で、体や脳の活性を促す体操を行う
9	発声練習・音読・歌	口腔機能の維持・向上を目的に、歌を歌ったり、音読や発声練習を行う
10	カラオケ機器の活用	カラオケ機器を使用し、カラオケのほか介護予防体操などのプログラムを実施
11	その他の訓練	日常生活動作訓練を行う（生活リハビリ）

● 個別機能訓練

No.	訓練名	概要
1	下肢筋力訓練	歩行能力の維持・向上を目的とした訓練を行う。ステップマシン運動、イージーウォーク運動、歩行訓練、立ち上がり訓練、かかと・つま先上げ訓練、段差訓練、体幹ストレッチなど。
2	上肢筋力訓練	滑車を利用した関節可動域訓練・腕力強化訓練・握力強化訓練・体幹ストレッチなど。

3	日常生活機能訓練	タオルたたみ、枕カバー掛け、手指運動・尿失禁予防体操など。
4	認知機能訓練	目的別に認知機能の維持・向上のための訓練を行う。計算問題・塗り絵・数字合わせ・文字合わせ・パズル・立体パズル・豆つまみ・ペグボード・ナット&ボルトなどを使用した活動など。

● まとめ

- ・利用実績に関しては、過去3年比較で右下がりとなっていますが、平均利用者数は令和5年よりも多くなっています。予定している利用者数にできるだけ近づけるべく、引き続き新規利用者を積極的に受け入れて参ります。
- ・収入状況に関しましても様々取組をしまいましたが、結果として減収となりました。これまで6種類の加算算定をしていましたが、人員欠如により、7月から個別機能訓練の2種類の加算算定を休止しており、現在は4種類の算定となっています。現実的にこれ以上の加算算定は見込めないため、令和8年度からは基本報酬の多いサービス提供時間の拡張（6時間以上7時間未満から7時間以上8時間未満）による営業に変更しています。
- ・支出増加に関しては、消耗品や光熱費を中心に節約をしていますが、世界情勢悪化に伴う相次ぐ値上げにより、事業所努力でカバーできる限界を超えています。また、送迎車両のランニングコストも相次ぐ値上げにより厳しい状況が続いています。
- ・業務改善については、前年度より職員のアイデアを取り入れながら、細かな見直しを何度もかけ、業務の時間や順番・重複作業をなくすることでできるだけ時間内に業務を終える事を目標に効率化を図っています。今後も現場職員の心身負担を第一に考え、少しずつ業務効率化を目指したいと考えています。
- ・次年度、サービス提供時間の拡張による10%程度の増収を見込んでいますが、利用者帰宅後の掃除・消毒作業・翌日営業準備・各委員会への参加等に影響が出ているのは事実です。これらの課題を少しでも改善するべく、次年度中にお掃除ロボットの導入を予定しています。また、これは令和8年6月からの上位の処遇改善加算算定において、ケアプランデータ連携システム導入と同様に必須要件にもなっているため、メーカーと協議中です。休止中の個別機能訓練加算算定再開については、人員確保の問題もあり断念しています。

令和 7 年度 事業報告

居宅介護支援事業報告書

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

05-01 居宅介護支援事業所データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	居宅介護支援事業所
対象年度	令和7年度
報告者氏名	手代森真純
管理者氏名	手代森真純
介護支援専門員数（年度末時点）	2
うち主任介護支援専門員数	1
新規受入件数（年度内）	20
終了件数（年度内）	32
データ抽出日	2026年5月7日

● 月別利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
ケアマネA担当	43	42	39	40	40	40	37	36	35	35	37	37	461
ケアマネB担当	40	41	40	41	40	41	38	37	35	34	31	34	452
合計	83	83	79	81	80	81	75	73	70	69	68	71	913

● 要介護度別内訳

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5
要介護1	30	29	28	27	26	30	30	26	23	22	28	26	325
要介護2	25	22	24	23	22	19	19	18	18	17	17	21	245
要介護3	8	8	11	10	10	11	11	10	16	11	8	9	123
要介護4	10	12	11	13	10	11	10	9	9	10	11	14	130
要介護5	12	9	9	10	10	9	7	6	6	6	6	6	96
合計	85	80	83	83	78	80	77	70	73	67	71	77	924
平均要介護度	2.4	2.4	2.4	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4

● 収支3年比較

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比
経常活動収入	12,794	13,228	13,196	-0.2%
経常活動支出	11,975	11,572	12,065	4.3%
経常活動収支差額	819	1,656	1,131	-31.7%
収支率（収入対比）	6.4%	12.5%	8.6%	-3.9%

● 居宅サービス利用

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
訪問介護	27	25	25	25	27	25	24	24	22	23	21	22	290
訪問入浴	3	3	4	4	4	5	5	5	4	4	3	4	48
訪問看護	10	10	10	11	12	11	10	9	10	8	9	10	120
通所介護	42	38	37	38	38	36	35	35	34	32	33	34	432
通所リハビリ	10	10	10	9	9	9	9	8	9	8	7	8	106
短期入所	13	15	14	16	13	16	14	13	12	13	14	15	168

訪問リハビリ	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	15
福祉用具貸与	45	44	42	43	45	43	40	41	40	38	37	38	496
その他	5	6	6	6	6	7	6	7	5	5	7	7	73
合計	157	152	149	153	155	153	144	143	137	132	133	140	1,748

● 施設サービス移行

施設・居住系サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
老人福祉施設入所	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	2	7
老人保健施設入所	1	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	8
グループホーム入居	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
生活支援ハウス入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有料老人ホーム・サ高住入居	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	3	0	3	0	2	1	2	1	1	0	2	17

● 申請代行業務

申請業務	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
福祉用具購入費支給支援	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	5
住宅改修費支給申請	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
介護負担限度額認定申請	0	1	1	2	9	2	1	0	0	0	1	1	18
要介護認定新規申請	0	0	0	1	1	0	3	1	0	2	0	1	9
要介護認定更新申請	7	1	3	6	3	4	2	5	3	3	1	1	39
居宅サービス計画作成依頼書	1	3	1	1	3	0	3	4	6	1	0	1	24
その他	4	1	2	0	1	0	1	0	4	1	0	0	14
合計	12	8	7	10	17	8	10	11	13	7	4	4	111

● 総括・まとめ

- ・利用者数は年度末に向けて減少傾向にある。担当ケースは介護度1～2の利用者が多く、介護度3～5の利用者は最終的に施設へ入所する方が多いため、長期に担当することは少ない。近年、お看取りを実施している施設が多く、施設の回転率が上がっているのか重度者の方の施設入所が多い。
- ・病院、訪問看護からの紹介で、がん末期で在宅緩和ケアを希望する方の支援が増えている。その方も支援期間は数日～数ヶ月と短い期間となる。
- ・介護1～2の利用者は、デイサービスの利用を希望する方が多い。自法人のデイサービスの利用を希望する相談で受け持つことが多い。
- ・福祉用具貸与の利用も多く、介護ベッド、車いす、歩行器、手すりのレンタルが多い。
- ・住宅改修は、町のシステムが厳しくなり、工事開始までに時間を要することから。住宅改修を福祉用具レンタルで代替することが多くなった。特定福祉用具購入は入浴用イスやポータブルトイレの購入が多い。
- ・役所への申請代行の中で、ご本人の通帳の写しが必要な申請もあり、慎重に扱わなければならないと感じる。

・入院により ADL が低下したり、または認知症が進んだことで、在宅介護が難しくなり施設入所を希望する方が多い。受け入れ先の施設がなかなか見つからず苦労している（入所施設に条件を付ける方が特に苦労を要する）。

・新規で相談を受けてマネジメントを開始するが、介護保険施設へ入所したり、ADL が改善されてサービスを必要としなくなったり、サービス開始前に亡くなれたりしサービス利用につながらない方も多くいた。

令和 7 年度 事業報告

認知症対応型共同生活介護事業報告書

社会福祉法人 美土里会

令和 8 年 6 月

目次

- 06-01 GH 総括
- 06-02 GH 利用状況データ
- 06-03 GH 収支・加算データ
- 06-04 GH 事故・苦情
- 06-05 GH 反省・目標
- 06-06 GH 医療情報
- 06-07 GH レクリエーション活動
- 06-08 GH 行事
- 06-09 GH 運営推進会議

グループホーム櫟 年間総括

グループホーム櫟（認知症対応型共同生活介護）

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）

管理者氏名	高橋史明
作成日	令和8年5月23日

■ 事業概要

定員18名、2ユニット運営。年間平均入居率98%（95日間の空床）。

■ 年間総括（4観点）

① 成果・できたこと

- ・運営推進会議で町内会との連携を取る事が出来ている。
- ・R6年度から有償運送開始し、家族の理解のもと受診対応をしてもらう事で、職員の業務時間を確保する事が出来ている。また家族より最後の親孝行ができてるようで良かったと声も聞かれた。

② 課題・反省点

- ・認知症状の重度化が進み、その人に対してのケアを必要とする時間が増えて、本来のグループホームらしさの実現が難しくなっている。

③ 改善のための取組み

- ・協力医療機関連携加算、医療連携体制加算の算定を検討し、実施に向けて準備を進めている。

④ 次年度の目標

- ・認知症チームケア推進加算（Ⅱ）への移行に向けて、9月の研修を受け、加算に移行出来るようにする。

06-02 GH 利用状況データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム櫟

対象年度	令和 7 年度
定員	18 名 (2 ユニット×9 名)
報告者氏名	高橋史明 (GH管理者)
データ抽出日	2026 年 5 月 20 日
データ抽出元	介護ソフト

● 月別入退所

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間/平均
新規入所者数	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
退所者数	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	2	6
うち他施設移行 (特養等)	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	6
うち入院・医療機関移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うちその他 (死亡・在宅復帰等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
月末入所者数	18	18	17	18	17	17	18	18	18	18	18	17	17.7

● 入退所 3 年比較

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
新規入所者数	1	3	4	33.3%
退所者数	1	3	6	1
うち他施設移行 (特養等)	1	2	4	1
うち入院・医療機関移行	0	0	1	
うちその他 (死亡・在宅復帰等)	0	1	1	0
年度末入所者数	18	18	17	-5.6%
年間平均入所者数	1	3	4	33.3%
年間平均入所率 (%)	0.4%	0.8%	1.9%	153.3%

● 出身地別

市町村	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	構成比 (R7)
七戸町	18	18	18	1
合計	18	18	18	1

● 要介護認定

要介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度末
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護 2	9	10	10	10	10	10	11	11	11	11	10	9	9
要介護 3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
要介護 4	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2
合計	18	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	18
平均要介護度	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.5	2.5

● 要介護度 3 年比較

要介護度	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	前年度比
要支援 1	0	0	0	
要支援 2	0	0	0	
要介護 1	3	3	2	-33.3%
要介護 2	10	8	9	12.5%
要介護 3	5	4	5	25.0%
要介護 4	0	1	0	-1
要介護 5	0	2	2	0
合計	18	18	18	0
平均要介護度	2.1	2.5	2.5	0

● 年齢分布

年齢階層	男性	女性	合計
65 歳未満	0	0	0
65～69 歳	0	0	0
70～74 歳	0	0	0
75～79 歳	0	0	0
80～84 歳	0	0	0
85～89 歳	0	4	4
90～94 歳	0	9	9
95～99 歳	0	4	4
100 歳以上	0	1	1
合計	0	18	18

● 平均年齢 3 年比較

項目	令和 5 年度末	令和 6 年度末	令和 7 年度末	前年度差
平均年齢（全体）	89.6	90.6	91.6	1
平均年齢（男性）	0	0	0	0
平均年齢（女性）	89.6	90.6	91.6	1
最高齢	98	99	100	1
最年少	82	80	81	1
85 歳以上の人数	7	4	0	-4
90 歳以上の人数	9	1	15	14

06-03 GH 収支・加算データ

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム櫟
対象年度	令和 7 年度
報告者氏名	作田隆子（事務長）
金額単位	千円
データ抽出元（収支）	会計ソフト
データ抽出元（加算）	介護ソフト
データ抽出日	

● 月別収支

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
収入	6,477	6,555	6,322	6,516	6,810	5,993	6,203	6,700	6,454	6,235	6,441	6,372	77,082
支出	4,505	6,478	10,267	5,827	5,066	6,129	4,724	4,807	9,489	5,893	6,220	6,490	75,901
収支差額	1,972	76	-3,945	689	1,743	-135	1,478	1,892	-3,035	342	221	-118	1,180
サービス活動収益計				77,082									
サービス活動費用計〔減価償却費等 反映後〕				79,211									
うち 減価償却費				3,251									
うち 国庫補助金等特別積立金取崩額				-553									
サービス活動増減差額〔年間最終収支〕				-2,129									

● 収支 3 年比較

項目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	前年度比
経常活動収入	76,541	77,335	77,082	-0.3%
経常活動支出	83,772	82,673	79,211	-4.2%
経常活動収支差額	-7,231	-5,338	-2,129	-60.1%
収支率（収入対比）	-9.4%	-6.9%	-2.8%	4.1%

● 収支分析

【収入の状況】

退所から入所までの期間が空く事が多かった。多い理由は入所希望者がいない、申し込みをした利用者家族及び担当ケアマネに部屋が空いたと声を掛けると、もう他の施設に入所した。というケースが多い。グループホーム入所希望者（特に介護している家族）は今すぐ入りたいと申し込みをする方が殆どである。そういう状況であるため、空床日数が増えることもある。

【次年度の課題】

協力医療機関連携加算及び医療連携体制加算（１）ハ等取得予定

● 加算算定状況

No.	加算名称	算定単位数	算定開始時期	算定区分	備考
1	処遇改善加算（Ⅰ）	施設基本報酬の 18.6%	令和 7 年 4 月～		
2	生産性向上維持体制加算Ⅱ	10 単位/月	〃	Ⅱ	
3	科学的介護推進体制加算	40 単位/月	〃		
計	算定中の加算数			3	件

● 未算定加算と方針

No	加算名称	未算定の理由	今後の方針・対応
1	協力医療機関連携加算	協力医療機関との覚書の取り交わしでの返事待ち	承諾を得られれば算定開始
2	医療連携体制加算(1)ハ	〃	〃
3	認知症チームケア加算Ⅱ	取得の為に専門研修未参加	認知症介護指導者(リーダー研修)参加しその後算定

06-04 GH 事故・苦情

● 基本情報

項目	内容
報告者(介護主任)氏名	吉田麻美(介護主任)
対象年度	令和7年度
設置事業所	グループホーム櫟
GH担当人員(年度末時点)	
介護リーダー数	
介護サブリーダー数	
新規採用者数(年度内)	
退職者数(年度内)	

● 事故ヒヤリ月別

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
事故 - 転倒		3	2				2		2	1	1	1	12
事故 - 臥床時転落													0
事故 - 座位時転落													0
事故 - 強打													0
事故 - 誤嚥・窒息													0
事故 - 異食・誤飲													0
事故 - 服薬関係		1											1
事故 - 離脱													0
事故 - 火傷									1				1
事故 - 溺水													0
事故 - その他													0
事故 小計	0	4	2	0	0	0	2	0	3	1	1	1	14
ヒヤリ - 転倒		1	1										2
ヒヤリ - 臥床時転落													0
ヒヤリ - 座位時転落													0
ヒヤリ - 強打													0
ヒヤリ - 誤嚥・窒息													0
ヒヤリ - 異食・誤飲		1							1				2
ヒヤリ - 服薬関係													0
ヒヤリ - 離脱													0

ヒヤリ - 火傷													0
ヒヤリ - 溺水													0
ヒヤリ - その他													0
ヒヤリ 小計	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
合計	0	6	3	0	0	0	2	0	4	1	1	1	18

● 事故ヒヤリ分析

【発生傾向の分析】

- ・他利用者の介助中に人感センサーが鳴り、駆け付けるも間に合わずに事故となったケースが多数見られている。
- ・人感センサーの向きが逆方向を向いており、事故後に発覚したケースもある。ヒューマンエラーであるが、勤務者が交代時に向きを確認し、再発防止に努めている。

【重大事故の振り返り】

- ・3/22 入浴中、目を離した時の転倒（頭部右額 3 c mの裂傷）。認知症の著しい進行が見られる利用者に対して、職員 2 人介助で行い、以降の発生無し。

【現場の取組みと成果】

- ・ヒヤリハット報告の活性化により、異食事故を未然に防ぐ事が出来た。

【次年度の課題】

- ・転倒リスクの高い利用者に対しての人感センサーの活用。
- ・夜勤帯、休憩を交代で取る前には、その日特に気を付ける利用者の状態等を詳細に申し送る。

● 相談苦情月別

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
相談									3				3
苦情									1	2			3
利用者間トラブル													0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	6

● 相談苦情分析

【相談・苦情の傾向】

- ・個人の嗜好や選択によるものが多く見られていた。

【対応プロセスの振り返り】

- ・ご家族、ご利用者からの要望は、可能な限り通すようにしている。不可能と思われる場合は、難しい理由を伝え、代替案を提示し、なるべく要望に添えるように対応している。

【現場の改善取組み】

- ・利用者間のトラブル防止の為に席替え。
- ・通院時、ご家族へご利用者の様子を細やかに伝える。

【次年度の課題】

- ・面会や受診の際のご家族とのコミュニケーションをとりつつ、会話の中から相談事や気になっている点があるかを把握していく。

● GH 総括

▶ 令和7年度 GH 事業計画の達成度評価（事故・苦情に関わる項目）

No.	事業計画の重点項目	取組内容・実績	達成度	備考・課題
1	認知症利用者の転倒防止	人感センサーの導入	B	同時期にセンサーが鳴った時の対応

【今年度の成果】

- ・事故、ヒヤリ、苦情相談等、職員間で情報を共有する事で、再発防止に努める事が出来た。

【課題・反省点】

- ・潜在的な相談事や苦情の一步手前のような事があると思われる為、ささいな事でも記録に残しながら、気付く事が出来るように今後も努めていく。

【次年度に向けて】

- ・面会時や電話にて、ご家族との情報共有の強化を図っていく。

06-06 GH 医療情報

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム櫟
対象年度	令和7年度
定員	18
報告者氏名	高橋史明（GH管理者）
嘱託医	大黒博医師
医療連携体制加算の有無	

● 通院状況

科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
内科	11	7	10	6	5	8	13	14	11	9	12	11	117
精神科・心療内科	4	2	3	4	5	4	6	5	5	5	6	6	55

整形外科	2			1				2	1			6
皮膚科			1		1		1	3			1	7
眼科	1	1	2	1	2		1	2		2	1	13
耳鼻咽喉科												0
歯科									1			1
その他		2		2			1	3	2	3	1	16
通院 計	18	12	16	14	13	12	22	27	21	20	20	215
往診（参考）									2			2

● 入退院一覧

▶ 年間集計（自動計算）

区分	件数	備考
入院（年間総数）	4	利用者 A、利用者 B、利用者 C、利用者 D
退院後 GH 復帰	2	利用者 C、利用者 D
入院中継続	0	
他施設・在宅へ	0	

▶ 年間データ詳細

No.	入院日	性別	年齢	病名	入院先	退院日	退院時 状況	備考
1	7 月 26 日	女	99	胆石性急性胆のう 炎	七病内科	—	特養入 所	8/17 退居
2	12 月 23 日	女	92	脳梗塞	十和田市立中央病 院	—	—	R8. 1/5 死亡、退居
3	12 月 6 日	女	90	原因不明の発熱	十和田市立中央病 院	12 月 19 日	復帰	経過良好
4	3 月 9 日	女	98	老衰	七病内科	3 月 31 日	復帰	経過良好

● 感染症 3 年比較

▶ 新型コロナウイルス

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合 計
令和 5 年度											4	4	8
令和 6 年度				8	8								16
令和 7 年度													0

▶ インフルエンザ

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合 計
令和 5 年度													0
令和 6 年度	4									5	5		14
令和 7 年度													0

▶ ノロウイルス・感染性胃腸炎

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度													0
令和6年度													0
令和7年度													0

▶ 疥癬

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度													0
令和6年度													0
令和7年度													0

▶ その他 R7. 原因不明（風邪症状）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度													0
令和6年度													0
令和7年度											5		5

● 総括・所感

【通院・入院の状況】

通院科目の偏り、入院件数の傾向等。

R7年度の通院件数は215件であった。R6年度と比較すると多かった。通院の内訳は、内科が117件（54％）を占めており、次いで精神科が55件（26％）となっている。

R6年度から通院手段を福祉有償運送サービス提供とし、受診対応はご家族にさせていただき事になった為、職員のマンパワーは大幅に削減する事が出来た。また、ご利用者のご家族の触れ合いが増えた事により、病状や状況をご家族に理解していただく良い機会になったと考える。

入院者は4名であった。退院後は入院前の状況まで体力が回復する事が出来ず、特養入所となった方が2名であった。

【嘱託医・医療連携の状況】

嘱託医との連携、医療連携体制加算の活用状況等。

嘱託医には月1回の回診に来ていただいている。回診での処方等はしていただいているが、ご利用者の健康状態や健診結果を見ていただき、受診のタイミング等の助言をいただいている。

【感染症対応】

感染症の発生状況・対応の振り返り。

今年度はインフルエンザや新型コロナ感染症の施設内での発生は無かったが、北町で原因不明の風邪症状のある方が5名発生してしまった。居室隔離困難な利用者やマスク等の感染対策が出来ないご利用者が多い為、食事時間をずらしたり、症状の無いご利用者にマスクを着用していただく等、職員で知恵を絞り、出来る事を行い、感染対策に努めた。

【次年度の課題】

グループホームならではの強みを生かし、個々のご利用者に寄り添い、異常の早期発見、早期対応に努め、きめ細かなケアを提供していきたい。そしてご利用者一人ひとりが日々の生活を楽しく健康に過ごせるような環境づくりに努めたい。

06-07 GH レクリエーション活動

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム櫟
対象年度	令和7年度
定員	18名(2ユニット×9名)
報告者氏名	高橋史明(GH管理者)

● 活動別月別

活動種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
音楽レク(歌・楽器)													0
創作活動(手芸・工作)	4	11	17	11	22	11	6	15		2	8	18	125
塗り絵・書道	19	37	41	41	54	31	65	85	33	53	52	34	545
脳トレ・ゲーム		4	3		1	5	1	9	4	4	5	8	44
体操・運動		8					5	9	17				39
園芸・植物のお世話													0
調理活動・おやつ作り													0
外出・散歩	18	34	6	5	5	11	22						101
季節の催事(お花見・お月見等)			17			17			17	7			58
回想法													0
アニマルセラピー・訪問交流													0
その他	51	161	114	170	199	208	193	309	192	251	227	181	2,256
合計	92	255	198	227	281	283	292	427	263	317	292	241	3,168

● 総括・所感

【今年度の取組み】

重点的に実施したレク、新たに始めた活動。

・塗り絵重視で活動を行ったが、生活問題、クイズ、計算等も解答出来る利用者がおり、毎日実施している。提供中は飽きずに行っている。

・雑巾縫いの他に、刺し子や編み物が出来る利用者様が増えた。ランプシェードという大作を作成出来て良かった。

・洗濯物たたみやチラシ開き、紙ちぎり等、ご利用者各々が出来る事を提供し、行ってもらっていた。

・日常業務がままならない時でも、ご利用者に少しでも季節感を味わってもらいたい、気分転換をしてほしいと、外出、ドライブ、果物狩りに力を入れた。

【利用者の反応・効果】

活動を通じて見られた利用者の反応や変化。

・「何かしていないと頭おかしくなる。」と話す方がおり、色々と創作を提供したかったが、付き添って行う時間が取れず実施出来なかった。刺し子に行えた。

・毛糸アート、コットンシェード等にも取り組んでみたかった。

・糸やボンドも古くなった物を捨てずに活用し、作品作りに使用出来た。（ランプシェード、刺し子）

・軽作業時、自分の役割だと思って行われるご利用者もあり、互いのコミュニケーションの交流にもつながることが出来ていた。

・外出後すぐに忘れてしまう方もいるが、外出先での声掛けに対する反応が良かったり、喜んでもらえる事があった。

【課題・反省点】

実施できなかった活動、参加率の低さ等。

・体操、唄、簡単に出来るレクリエーション、皆で楽しめるレク等、普段でも実施していきたい。

・心も身体も鍛えていけるような活動を実施していきたい。

・生活的活動、ADLを向上できるような物を考案していく。

・創作活動や軽作業を出来る方だけに目がいきがちになってしまっている事がある。

【次年度に向けて】

新たに取り組みたい活動、改善したい点。

・コットンシェード、紙コップ帽子、体操、唄、魚釣りゲーム等のレクリエーションを、隙間時間を見つけて実施していく。

・普段の業務内で、自分の業務ばかりを行うのではなく、利用者に関りをもてる業務を行えるようにしていきたい。

・認知症の進行具合で、出来る事、出来ない事は人それぞれだが、それぞれに合った作業やレク活動を提供したり、時には一緒に行っていきたい。

06-08 GH 行事

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム 櫟
対象年度	令和 7 年度
定員	18 名 (2 ユニット×9 名)
報告者氏名	高橋史明 (GH管理者)

● 年間行事

No.	実施日	行事名	参加者数	内容・備考
1	4 月 21 日	花見見学、外食	18	花見ドライブ後まるまつで外食
2	5 月 9 日	ドライブ	11	ドライブ (荒谷牧場)
3	5 月 16 日	つつじ見学	18	天王神社 つつじ
4	5 月 26 日	ドライブ	9	七戸町内
5	6 月 13 日	花見学	4	十和田市鯉艸郷
6	6 月 20 日	さくらんぼ狩り	4	南部町来満園芸
7	7 月 16 日	水族館見学、外食	2	浅虫水族館
8	8 月 8 日	森林浴	6	十和田市焼山方面
9	9 月 2 日	桃狩り	4	南部町パノラマ果夢園
10	9 月 7 日	七戸秋祭り見学	4	秋祭り見学
11	9 月 10 日	ドライブ	3	十和田市焼山方面
12	9 月 25 日	お楽しみ会	18	レクリエーション、食事
13	10 月 3 日	ぶどう狩り	5	南部町なかよしファーム
14	10 月 28 日	紅葉狩り	17	十和田湖溪流館
15	12 月 12 日	忘年会	17	レクリエーション、食事
16	2 月 20 日	100 歳を祝う会	9	記念品贈呈、ティータイム
計	年間行事件数		16	件

● 総括・所感

【今年度の取組み】

重点的に実施した行事、新たに始めた行事。

- ・季節に応じた外出（花見、紅葉ドライブ）や、敬老の日がある 9 月にはお楽しみ会、12 月には忘年会を行った。
- ・忘年会～家族参加無いものの、利用者で楽しめるレクリエーションを考え、盛り上がった。
- ・いつもお手伝いくださる方へささやかなプレゼントをしていたが、今年度から中止。
- ・次年度からは、忘年会という名称ではなく、レクリエーション大会で良いのではないと思われる。

【利用者・家族の反応】

行事を通じての利用者・家族の反応。

- ・利用者にとって久々の大掛かりなレクリエーションで、とても面白かったようで、泣き笑いする方もいて、大盛り上がりであった。
- ・会食は、楽しみにされている利用者も多く、今後も提供していく。
- ・コスト削減の為、ネット注文でミニケーキを購入した。サイズも量も丁度良く、味も美味しかったと好評であった。
- ・外出に関して、とても喜ばれる方もいれば、いつもと違う雰囲気にならなってしまう方、外の景色にほとんど興味が無い方等、反応は人それぞれであった。
- ・お楽しみ会や忘年会では、いつもと違った雰囲気でありながらも、ミニゲームを通して一生懸命な姿が見られたり、負けまいと熱中する姿等、普段見られないような姿を目にする事があった。

【課題・反省点】

中止行事、運営上の課題等。

- ・桃狩りは、以前酷暑の時は中止していた。（熱中症になる恐れあり）今年度は雨天決行で、ビニールハウス内で桃狩りを楽しんで頂けた。来年度こそは、天気の良い中での桃狩りを体験させてあげたい。
- ・夏祭り風のレクリエーション、魚釣り、的当てゲーム等を実施していきたい。
- ・認知機能症状の強弱が人それぞれの為、全員で同じものを楽しんだり取り組んだりする事が難しい時もあった。

【次年度に向けて】

新たに実施したい行事、改善点。

- ・レク係の他に、医療係、物品係の方が掛け持ちで参加する事で、季節の行事分担を振り分けて実施できるようにしたい。
- ・創作も一人ではなく、数人で協力して飾っていく。
- ・職員同士力を合わせて、行事、レク活動を行えるようにしていきたい。
- ・大きな行事をR 8年度は無くした。ただ、花見や紅葉ドライブに関しては見頃な時に職員で協力しあって、円滑に連れて行き鑑賞してもらいたいと考えている。
- ・「行事」という大きな括りにしてしまうと、人手が必要になってしまうので、日々の生活の中で出来る限りの楽しみを提供出来るよう努めていく。

06-09 GH 運営推進会議

● 基本情報

項目	内容
事業所名	グループホーム 櫟
対象年度	令和 7 年度
定員	18 名（2 ユニット×9 名）
報告者氏名	高橋史明（GH 管理者）
開催回数	5

● 開催記録

No	開催日	開催時間 ・ 場所	主な議題	参加者数	主な意見・提言・成果
1	5 月 23 日	13:30～ 14:00	・ 委員紹介 ・ 令和 6 年度事業報告 ・ 活動報告 ・ 運営推進会議について ・ 質疑応答、意見交換	8	七戸町役場より、事故防止の為、利用者の見守りを引き続きお願いする。
2	7 月 24 日	13:30～ 14:00	・ 活動報告 ・ 脳トレについて ・ 特養、デイサービス見学 ・ 質疑応答、意見交換	8	熊の出没について
3	9 月 29 日	13:30～ 14:00	・ 活動報告 ・ 若年性認知症及び長谷川簡易知能評価スケール ・ 質疑応答、意見交換	8	熊の出没について
4	11 月 28 日	13:30～ 14:00	・ 活動報告 ・ 高齢者虐待 ・ 質疑応答、意見交換	8	七戸町役場より、町内イベントのお知らせ。インフルエンザ感染について、感染者はいないが、状況により会議中止の可能性あり。
5	1 月 22 日	インフルエンザ感染予防の為中止、書面開催			
6	3 月 25 日	13:30～ 14:00	・ 活動報告 ・ 令和 8 年度事業計画 ・ 質疑応答、意見交換	9	七戸町役場より、グループホームが 2 施設しか運営していないとの報告。グループホーム入所希望が求められる事が多くなる可能性あり。インフルエンザ感染状況について。
計	開催回数			6	回（自動計算・年間 6 回以上必須）

● 総括・所感

【今年度の運営状況】

開催回数・参加者構成・主な議題等の総括。

- ・ 今年度は 6 回開催。その内 1 回はインフルエンザ感染予防の為中止、書面開催とした。

【地域・家族との連携成果】

会議を通じて得られた連携・協力の事例。

- ・その都度情報提供しているが、地域、家族等の皆様からの意見はほとんど無い。引き出そうとしても「特に無いです。」との返答が多い。

【課題・反省点】

参加率の課題、議題の偏り等。

- ・運営推進会議委員の方に、欠席なく参加して頂いている。
- ・医療職員は、業務の都合により参加出来ない時もあった。

【次年度に向けて】

会議運営の改善点、新たな取組み等。

- ・グループホームの情報や活動報告はしているが行政、地域、利用者家族の皆様の意見をもっと吸い上げれるような話題を検討していく。

● 反省と次年度目標（4観点）

① 今年度の成果

- ・年間平均入居率 98%（95 日間の空床）

② 課題・反省点

③ 改善のための取組み

- ・医療連携体制加算の算定の実現に向けて、取り組んでいく。

④ 次年度の目標

- ・認知症専門ケア加算（Ⅱ）への移行に向けて、令和8年9月の研修を受けて、加算に移行出来るようにする。

